宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第74集

竹下遺跡

― 第Ⅷ次調査 ―

平成22年3月

宇都宮市教育委員会

B 地区完掘状況（南西から）

SI01 出土の大形深鉢形土器

序

宇都宮市東部の竹下町に所在する本遺跡は、昭和28年に宇都宮大学が調査して以来、縄文時代の遺跡として著名で、現在までに8回の調査が行われています。今回の報告は、平成17年度に個人住宅の建設に先立ち実施した発掘調査に関するものです。

この調査では、県内で最大級の大きさの縄文土器が出土しています。このような大きな土器が出土したことは、本遺跡がこの地域の拠点的なムラであったことを示しています。

今回の調査は竹下遺跡の一部の調査ではありますが、本県の縄文時代を研究する上で極めて貴重なものであり、本報告書が多くの方々により広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、多大なるご協力とご理解を賜りました地権者の皆様並びに関係諸機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成22年3月30日

宇都宮市教育委員会

教育長　伊　藤　文　雄

例　　言

1　本報告書は、栃木県宇都宮市竹下町に所在する竹下遺跡の第Ⅷ次調査に関する発掘調査報告書である。

2　本調査は、個人住宅の建設に伴う調査で、平成17年度に国庫補助事業として実施したものである。

3　調査は、平成17年5月2日～7月31日に実施したものである。

4　調査面積は、A地区が200㎡、B地区が534㎡である。

5　発掘調査での測量、写真撮影等は、今平利幸がこれにあたった。

6　遺構・遺物の整理、実測などは、上野とも子、齊藤しのぶ、大澤順子、君島朱美、澤村有紀子、大野節子、鈴木道子、川津淳子、阿久津とよ子の協力得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、上野とも子、齊藤しのぶがこれにあたった。

7　本書の執筆は今平がこれにあたった。

8　本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。

9　発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員		塙　　静夫
〃		橋本　澄朗

〔調査主体〕

宇都宮市教育委員会	教育長	伊藤　文雄
	教育次長	福田　幹雄
調査担当	文化課長	渡辺　　卓
	文化課長補佐	小林　房夫
	文化財保護係長	梁木　　誠
	文化財保護係	大塚　雅之，板倉　英伸，神野　安伸，富川　　努，増山　孝之，今平　利幸，須田浩太郎，前原　義之，井上　俊邦，大島　羊子

（発掘調査補助員）

入江　晴江，栗原　公子，佐藤恵美子，坂本　彦司，坂本　敏子，阿久津陽子

10　発掘調査及び報告書作成に関しては、次の諸機関、諸氏に御協力を賜った。記して、感謝の意を表する次第である。（敬称略）

栃木県教育委員会文化財課，栃木県埋蔵文化財センター，上野 修一，江原 英，後藤 信祐，塚原 孝一
石井　寛，鈴木　悳雄

凡　　例

1．挿図の縮尺は、竪穴住居跡などの遺構が1/60とし、遺物は1/3 で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。

2．断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。

3．遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。

ロームブロック…LB　ローム粒…LR　今市パミス…IP　七本桜パミス…SP　鹿沼パミス…KP　炭化物…C

4．遺構においては次の略号を使用した。　竪穴住居跡…SI　土坑…SK

目　　次

序・例言・凡例

Ⅰ　はじめに

1　調査の経過 …… 1

2　遺跡の環境 …… 1

Ⅱ　調査概要

1　A地区 …… 6

（1）竪穴住居跡

（2）土坑

（3）遺構外出土土器

（4）石器

2　B地区 …… 17

（1）竪穴住居跡

（2）土坑

（3）遺構外出土土器

（4）石器

Ⅲ　おわりに …… 64

挿図目次

第１図　調査区と遺跡の範囲…… 2
第２図　周辺遺跡分布図…… 5
第３図　Ａ地区全体図…… 7
第４図　Ａ地区東側平・断面図…… 8
第５図　Ａ地区SI01出土遺物実測図…… 8
第６図　Ａ地区西側平・断面図…… 9
第７図　Ａ地区SK01～04・06出土遺物実測図 …… 10
第８図　Ａ地区遺構外出土遺物実測図（1）…… 11
第９図　Ａ地区遺構外出土遺物実測図（2）…… 12
第10図　Ａ地区出土石器遺物実測図（1）…… 14
第11図　Ａ地区出土石器遺物実測図（2）…… 15
第12図　Ａ地区出土石器遺物実測図（3）…… 16
第13図　Ｂ地区全体図 …… 18
第14図　Ｂ地区①平面図 …… 20
第15図　Ｂ地区①断面図 …… 21
第16図　Ｂ地区②平面図 …… 22
第17図　Ｂ地区②断面図 …… 23
第18図　Ｂ地区③平面図 …… 24
第19図　Ｂ地区③断面図 …… 25
第20図　Ｂ地区④平面図 …… 26
第21図　Ｂ地区④断面図 …… 27
第22図　Ｂ地区SI01～06平面図 …… 28
第23図　Ｂ地区SI08～10・12・SK51・60平面図…… 29
第24図　Ｂ地区SI01出土遺物実測図（1）…… 30・31
第25図　Ｂ地区SI01出土遺物実測図（2）…… 32
第26図　Ｂ地区SI01出土遺物実測図（3）…… 33
第27図　Ｂ地区SI01出土遺物実測図（4）…… 34
第28図　Ｂ地区SI02・04～06出土遺物実測図 …… 35
第29図　Ｂ地区SI08・SI12出土遺物実測図 …… 36
第30図　Ｂ地区SI13出土遺物実測図（1）…… 37
第31図　Ｂ地区SI13出土遺物実測図（2）…… 38
第32図　Ｂ地区SI13出土遺物実測図（3）…… 39
第33図　Ｂ地区SK01・02・05出土遺物実測図…… 44
第34図　Ｂ地区SK06・07・10出土遺物実測図…… 45
第35図　Ｂ地区SK11出土遺物実測図…… 46
第36図　Ｂ地区SK14・21・23～25・39・42出土遺物実測図
…… 47
第37図　Ｂ地区SK46・49出土遺物実測図…… 48
第38図　Ｂ地区SK50出土遺物実測図（1）…… 49
第39図　Ｂ地区SK50出土遺物実測図（2）…… 50
第40図　Ｂ地区SK50出土遺物実測図（3）…… 51
第41図　Ｂ地区SK51・52・55・60出土遺物実測図…… 52
第42図　Ｂ地区遺構外出土遺物実測図（1）…… 53
第43図　Ｂ地区遺構外出土遺物実測図（2）…… 54
第44図　Ｂ地区出土石器実測図（1）…… 55
第45図　Ｂ地区出土石器実測図（2）…… 56
第46図　Ｂ地区出土石器実測図（3）…… 57
第47図　Ｂ地区出土石器実測図（4）…… 58
第48図　Ｂ地区出土石器実測図（5）…… 59
第49図　Ｂ地区出土石器実測図（6）…… 60
第50図　Ｂ地区出土石器実測図（7）…… 61

表目次

第１表　調査経過表…… 2
第２表　周辺遺跡一覧表…… 4
第３表　Ａ地区石器一覧表 …… 13
第４表　Ｂ地区石器一覧表 …… 63
第５表　時期別遺構変遷（案）…… 64

写真図版目次

巻首図版
ＰＬ１　①Ａ地区SI01完掘状況
　　②Ａ地区石囲炉確認状況
ＰＬ２　①Ａ地区SK01確認状況
　　②Ａ地区SK02完掘状況
　　③Ａ地区SK03完掘状況
　　④Ａ地区SK04・05完掘状況
　　⑤Ａ地区SK06確認状況
ＰＬ３　①Ａ地区全景（北から）
　　②Ｂ地区SI01完掘状況
ＰＬ４　①Ｂ地区SI01遺物出土状況
　　②Ｂ地区SI02完掘状況
ＰＬ５　①Ｂ地区SI03遺物出土状況
　　②Ｂ地区SI04完掘状況

ＰＬ６	①Ｂ地区SI12・SK46完掘状況
	②Ｂ地区SI12遺物出土状況
ＰＬ７	①Ｂ地区SI13周辺完掘状況
	②Ｂ地区SI08遺物出土状況
ＰＬ８	①Ｂ地区SI13遺物出土状況
	②Ｂ地区SI13炉確認状況
ＰＬ９	①Ｂ地区SK05完掘状況
	②Ｂ地区SK06遺物出土状況
	③Ｂ地区SK08・SK10完掘状況
	④Ｂ地区SK07・SK15完掘状況
	⑤Ｂ地区SK11遺物出土状況
	⑥Ｂ地区SI11完掘状況
	⑦Ｂ地区SK14遺物出土状況
	⑧Ｂ地区SK24～31完掘状況
ＰＬ10	①Ｂ地区SK49完掘状況
	②Ｂ地区SK50完掘状況
	③Ｂ地区SK50遺物出土状況
	④Ｂ地区SK51完掘状況
	⑤Ｂ地区SK60完掘状況
	⑥Ｂ地区完掘状況（南西から）
	⑦Ｂ地区東側完掘状況（南から）
	⑧Ｂ地区西側完掘状況（南から）
ＰＬ11	①Ａ地区SI01出土遺物
	②Ａ地区SK01出土遺物
ＰＬ12	①Ａ地区SK02出土遺物
	②Ａ地区SK03・SK04・SK06出土遺物
ＰＬ13	①Ａ地区遺構外出土遺物－１
	②Ａ地区遺構外出土遺物－２
	③Ａ地区遺構外出土遺物－３
ＰＬ14	①Ａ地区遺構外出土遺物－４
	②Ａ地区遺構外出土遺物－５
ＰＬ15	①Ａ地区出土石器
ＰＬ16	①Ｂ地区SI01出土遺物
ＰＬ17	①Ｂ地区SI01出土遺物
	②Ｂ地区SI02出土遺物
	③Ｂ地区SI04出土遺物
	④Ｂ地区SI05出土遺物
	⑤Ｂ地区SI06出土遺物
ＰＬ18	①Ｂ地区SI08出土遺物
	②Ｂ地区SI12出土遺物
ＰＬ19	①Ｂ地区SI13出土遺物－１
	②Ｂ地区SI13出土遺物－２
	③Ｂ地区SI13出土遺物－３
	④Ｂ地区SI13出土遺物－４
ＰＬ20	①Ｂ地区SK02出土遺物
	②Ｂ地区SK05出土遺物－１
	③Ｂ地区SK05出土遺物－２
ＰＬ21	①Ｂ地区SK06出土遺物
	②Ｂ地区SK07出土遺物
	③Ｂ地区SK10出土遺物
	④Ｂ地区SK11出土遺物－１
	⑤Ｂ地区SK11出土遺物－２
	⑥Ｂ地区SK11出土遺物－３
ＰＬ22	①Ｂ地区SK14出土遺物
	②Ｂ地区SK21出土遺物
	③Ｂ地区SK23出土遺物
	④Ｂ地区SK24出土遺物
	⑤Ｂ地区SK25出土遺物
	⑥Ｂ地区SK39・SK42・SK49出土遺物
ＰＬ23	①Ｂ地区SK46出土遺物
	②Ｂ地区SK50出土遺物
ＰＬ24	①Ｂ地区SK50出土遺物
ＰＬ25	①Ｂ地区SK50出土遺物
	②Ｂ地区SK50出土遺物
	③Ｂ地区SK51出土遺物
	④Ｂ地区SK52出土遺物
	⑤Ｂ地区SK60出土遺物
ＰＬ26	①Ｂ地区遺構外出土土器
	②Ｂ地区出土石器
ＰＬ27	①Ｂ地区出土石器
ＰＬ28	①Ｂ地区出土石器

Ⅰ．は じ め に

1．調査の経過

平成16年8月5日に竹下町494-1番地（以後「A地区」とする）と道場宿町字飛山1007番地（以後「B地区」とする）において個人住宅の建設が予定されたためトレンチによる確認調査を実施した。両地区とも縄文時代の竪穴住居跡及び土坑が確認された。

この結果を受けて地権者と協議を行い、平成17年度に国・県の補助を得て本調査を実施することとした。調査は平成17年5月2日にA地区から開始し、A地区が終了後にB地区へと移り7月31に終了した。遺跡内における調査区の位置関係は第1図のとおりである。調査の結果、A地区では、竪穴住居跡2軒、土坑6基、B地区では竪穴住居跡11軒、土坑62基、石囲炉2基が確認された。

尚、本遺跡は昭和28年に宇都宮大学郷土史研究班が最初の調査を行った。以来、今までに8回の調査が行われている。そのほとんどが、個人住宅建設に先立つ事前調査であるため、遺跡の内容が断片的にしかわからない。

これまでの調査で、平地式住居跡1軒、竪穴住居跡34軒、土坑430基以上などが確認されている。

第Ⅱ次調査では、遺跡のほぼ中央の調査で、土坑が217基確認されている。土坑には深さが1m以上で袋状の断面形の貯蔵用のもと、深さが50cm前後の比較的浅いものとがあり、ここから出土した遺物は、縄文時代中期前葉から後期後葉のもので、主に中期中葉の時期の遺物が多く出土している。

第Ⅲ次調査は、Ⅱ次調査区の南東部にあたり、13軒の竪穴住居跡が確認されている。竪穴住居跡は直径4～5mの円形もしくは楕円形のもので、大部分のものは中心に石囲炉があり、壁に柱穴がめぐる。特にSI01とSI09は、出入り口部分と思われる溝が対になって外側に張り出す状況が確認されている。なお、これらの住居跡からは後期の加曽利B式の土器が出土している。

第Ⅴ次調査は、Ⅱ次調査区の北東部にあたり、2軒の竪穴住居跡と土坑が36基確認されている。袋状土坑が多く確認され、出土遺物から中期を中心とする時期と考えられる。

第Ⅶ次調査は、国指定史跡飛山城跡への進入路建設に伴う発掘調査で、本遺跡の西側縁辺部分に当たる。3軒の竪穴住居跡と土坑が数十基確認されているが、遺跡の中心部に比べ遺構の密度は希薄である。出土遺物から中期を中心とする時期と考えられる。

これらの調査から、本遺跡は南北300m、東西200mの規模で、縄文時代中期から後期にかけての拠点的な集落跡と考えられる。

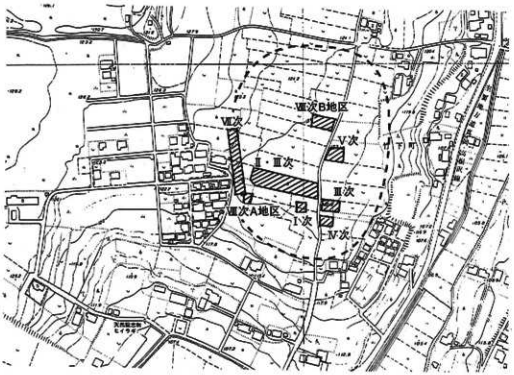
2．遺跡の環境

竹下遺跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本遺跡は、宇都宮市の中心から東方へ約7kmに所在し、同台地上には国指定史跡の飛山城跡が所在する。

遺跡の周辺は主に畑地として利用されているが、すぐ西側には住宅団地が造成され、宅地化が進んでいる。

本遺跡は、鬼怒川左岸の台地上に立地し、標高は約120～125mを測る。この台地は北から西側にかけて鬼怒川が南流し、東と南側は小河川により開析され谷が形成され，一見独立丘陵の様相を呈する。本遺跡はその南側緩斜面上に営まれた縄文時代の集落跡である。

次に、本遺跡周辺の歴史的環境について概略を述べる。



第１図　調査区と遺跡の範囲

調査次	調査期間	調査面積 ㎡	調査内容	調査機関
第Ⅰ次	昭和 28 年 10 月 8 日～12 日		縄文時代後期の平地式住居跡１軒	宇都宮大学郷土史研究班
第Ⅱ次	昭和 62 年 10 月 16 日～同年 12 月 19 日	1,040	縄文時代の竪穴住居跡１軒、土坑 217 基、小ピット等	宇都宮市教育委員会
第Ⅲ次	平成２年８月１日～10 月８日	400	縄文時代中・後期の竪穴住居跡 13 軒、土坑 52 基等	〃
第Ⅳ次	平成２年８月６日～８月 23 日	65	土坑 15 基、小ピット等	〃
第Ⅴ次	平成５年７月 26 日～10 月 15 日	200	縄文時代中期の竪穴住居跡２軒、土坑 36 基、石囲炉２基、小ピット等	〃
第Ⅵ次	平成６年１月 27 日～３月 31 日	150	縄文時代の竪穴住居跡２軒、土坑 40 基等	〃
第Ⅶ次	平成 14 年５月１日～５月 30 日	500	縄文時代の竪穴住居跡３軒、土坑数十基等	〃
第Ⅷ次	平成 17 年５月２日～７月 31 日	734	縄文時代の竪穴住居跡 13 軒、土坑 66 基、石囲炉３基、小ピット等	〃

第１表　調査経過表

旧石器時代

本遺跡の北西約 500 mの飛山城跡内から、旧石器時代の落とし穴状遺構が2基確認されている。出土遺物がなく時期の特定は難しいが、その層位から約3万年前の遺構と考えられる。

縄文時代

この時代の遺跡は、鬼怒川左岸の清原台地上に数多く見られる。

本遺跡の北方約 7 km に石神遺跡が所在する。この遺跡は、国道4号拡幅工事に先立ち、昭和 54 年度と昭和 61 年度の2回調査が行われ、竪穴住居跡、土坑などが確認されている。第2次調査では、縄文時代中期（阿玉台式）の工房跡と想定される竪穴住居跡（SI-01）が確認されている。

本遺跡の北東方約 5km に板戸不動山遺跡が所在する。この遺跡は平成 14 年度に調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡が 111 軒、土坑多数が確認され、竪穴住居跡が環状にめぐる「環状集落」であることが判明した。

本遺跡の北東方約 2.5km には刈沼遺跡が所在する。この遺跡は下野考古学会と宇都宮市教育委員会により数回にわたる調査が行われ、縄文時代後～晩期にかけての集落跡であることが判明している。

本遺跡の南東方約 600m に清陵高校地内遺跡が所在する。この遺跡は昭和 58 年度に調査が行われ、縄文時代早期（井草式期）の竪穴住居跡が1軒確認されている。住居跡の規模は直径約3 mの円形のプランで、住居跡内からは、撚糸文系土器（井草Ⅰ式）、石核、礫器などが出土している。

本遺跡の南方約 4.5km に下西原遺跡が所在する。この遺跡は平成 19 年度に調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡が 11 軒、土坑 80 基以上が確認されている。下西原遺跡から東方約 1 km に下上遺跡が所在する。この遺跡は平成 16 年度にとちぎ生涯学習財団埋蔵文化財センターにより調査が行われ、縄文時代中期末葉から後期前葉を中心とする遺跡であることが確認されている。

このほかにも鎮守林西遺跡、千波ヶ原遺跡、東田遺跡など数多くの縄文時代の遺跡が所在する。

古墳時代

本遺跡の東方約 1 km に竹下浅間山古墳が所在する。この地域では、前期・中期の目立った古墳が確認されていない中、6 世紀末に忽然とこの古墳が出現する。この古墳は昭和 48 年の調査の結果、全長 52.5 mの前方後円墳であることが判明し、横穴式石室内から頸椎大刀をはじめ鉄鏃・鉾・刀子などの武器、轡・辻金具などの馬具、銅鈴・耳環・勾玉などの装身具と豊富な副葬品が出土している。この古墳の周辺には今のところ大規模な古墳群は確認されておらず、板戸愛宕塚古墳群・板戸不動山古墳群・満美穴古墳群・無宗古墳群など数基程度の円墳群が点在する。

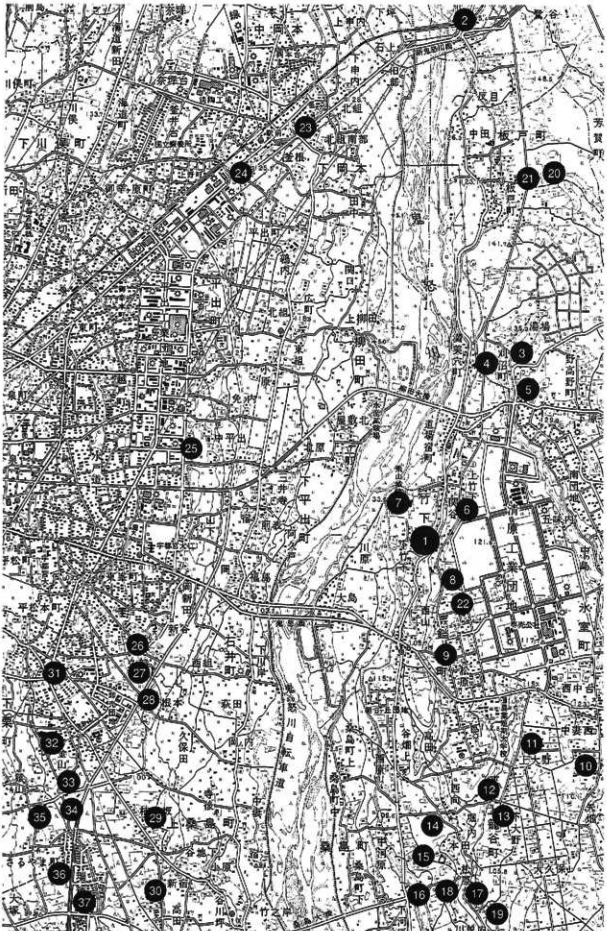
集落跡は、本遺跡の北東方約 2 km に刈沼東原遺跡が調査されている。古墳時代後期の竪穴住居跡が 50 軒程度確認されている。また、下西原遺跡でも古墳時代の竪穴住居跡が確認されている。

古代

本遺跡に近接する飛山城跡内から古代の緊急連絡施設である「烽」に関連する墨書土器とそれに関連する遺構が確認され、この台地西側縁辺に「烽家」の施設が設置されていたことが判明した。また、本遺跡の西方約 2.5km のところを古代の官道である東山道がとおっていたこともわかっている。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代　と　種　別	備　考
1	竹下遺跡	宇都宮市竹下町	縄文時代の集落跡	
2	石神遺跡	高根沢町宝積寺	縄文時代の集落跡	
3	刈沼東原遺跡	宇都宮市刈沼町	奈良・平安時代の集落跡	
4	満美穴古墳群	宇都宮市満美穴町	古墳時代の古墳	円墳４基
5	刈沼遺跡	宇都宮市刈沼町	縄文・古墳時代の集落跡	
6	竹下浅間山古墳	宇都宮市竹下町	古墳時代の古墳	市指定史跡
7	飛山城跡	宇都宮市竹下町	旧石器時代の落とし穴・平安時代の烽跡・中世の城跡	国指定史跡
8	千波ヶ原遺跡	宇都宮市竹下町	縄文・古墳時代の集落跡	
9	鐘山東原遺跡	宇都宮市鐘山町	縄文・奈良・平安時代の集落跡	
10	おひじり塚古墳	宇都宮市氷室町	古墳時代の古墳	円墳
11	千波稲荷神社古墳	宇都宮市氷室町	古墳時代の古墳	円墳
12	東田遺跡	宇都宮市上籠谷町	縄文時代の集落跡	
13	シドミ久保遺跡	宇都宮市上籠谷町	縄文・古墳時代の集落跡	
14	上籠谷笹塚古墳	宇都宮市上籠谷町	古墳時代の古墳	円墳？
15	西向遺跡	宇都宮市上籠谷町	縄文・奈良・平安時代の集落跡	
16	下西原遺跡	宇都宮市上籠谷町	縄文・奈良・平安時代の集落跡	
17	下上遺跡	宇都宮市上籠谷町	縄文・奈良・平安時代の集落跡	
18	鳥井戸遺跡	宇都宮市上籠谷町	古墳～平安時代の集落跡	
19	無宗古墳群	宇都宮市上籠谷町	古墳時代の古墳	円墳２基
20	板戸不動山遺跡	宇都宮市板戸町	縄文時代の集落跡・古墳時代の古墳	円墳２基
21	板戸愛宕塚古墳	宇都宮市板戸町	古墳時代の古墳	円墳４基
22	清陵高校地内遺跡	宇都宮市竹下町	縄文時代の集落跡	
23	日枝神社南遺跡	宇都宮市中岡本町	古代の遺跡	
24	釜根遺跡	宇都宮市中岡本町	古代の遺跡	
25	上野遺跡	宇都宮市上野町	古代の遺跡	
26	三日月神社古墳	宇都宮市石井町	古墳時代の古墳	円墳５基
27	久部浅間山古墳	宇都宮市石井町	古墳時代の古墳	前方後円墳
28	久部愛宕塚古墳群	宇都宮市石井町	古墳時代の古墳	前方後円墳１基、円墳３基
29	柿木坂遺跡	宇都宮市上桑島町	縄文時代の集落跡・古墳時代の古墳	
30	根本西台古墳群	宇都宮市西刑部町	古墳時代の古墳	前方後円墳３基、円墳15基等
31	十ケ屋敷遺跡	宇都宮市平松本町	古墳～平安時代の集落跡	
32	道金仏遺跡	宇都宮市下栗町	縄文・古墳時代の集落跡	
33	天王山古墳群	宇都宮市下栗町	古墳時代の古墳	円墳３基
34	東原古墳群	宇都宮市下栗町	古墳時代の古墳	前方後円墳２基、円墳４基
35	さる山古墳群	宇都宮市下栗町	古墳時代の古墳	前方後円墳１基、円墳10基
36	猿山遺跡	宇都宮市西刑部町	奈良・平安時代の集落跡	
37	瑞穂野工業団地内遺跡	宇都宮市瑞穂	旧石器・弥生・古墳～平安時代の集落跡	

第２表　周辺遺跡一覧表



第2図　周辺遺跡分布図」(1/50,000)

Ⅱ. 調 査 概 要

遺構は、A地区で、竪穴住居跡2軒、土坑6基（第3図）、B地区で竪穴住居跡11軒、土坑60基、石囲炉2基（第11図）が確認された。以下、それぞれの遺構について記す。

1．A地区

(1) 竪穴住居跡

SI01（第4・5図）

規模・形状　南北3.4 m×東西4 mの楕円形。**床面の状況**　床面はローム地山。南側で一段深くなる。**壁**　確認面から深さ20cm。**柱穴**　壁際に柱穴が9本めぐる。**炉**　中央やや北寄りに地床炉。**重複関係**　南側壁面付近でSK02・SK03に切られる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片9点。1～3は口縁部片である。1は横位の押引文、3は沈線による渦巻文が施される。4～9は胴部片で、沈線により縄文帯と無文帯を区分する。

SI02（第6図）

規模・形状　表土からの確認面が浅く調査区外にのびるため、規模・形状は不明である。**床面の状況**　床面は褐色地山。**壁**　不明。**柱穴**　P12～P16はこの住居跡に伴うと思われる柱穴である。**炉**　川原石を使用した石囲炉。石は東西面に大きめな石を使用し、長方形に組まれている。その規模は長軸0.7 m×短軸0.6 mである。**重複関係**　無。**覆土の状況**　不明。**遺物**　実測可能な遺物は無い。

(2) 土坑

SK01（第6・7図）

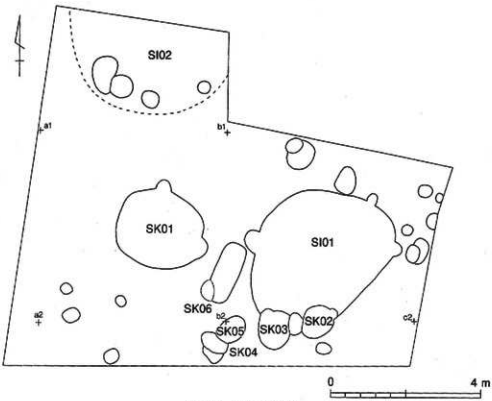
規模・形状　南北2.1 m×東西2.3 mの楕円形。**重複関係**　無。**壁・床面**　建物基礎の掘削深度を超えるため床面までの掘り下げを行わなかった。壁はほぼ垂直。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は縄文土器片13点、磨石1点。1～4は口縁部片である。1は沈線による楕円区画文が描き出される。2は波状口縁。4は口縁端部の凹線内及び外面に円形の刺突文、口唇部に蛇行隆帯を貼り付ける。5～12は胴部片である。5と6は地文が縄文で、隆帯を貼り付ける。7は地文が撚糸文で、隆帯を貼り付ける。8は条痕文。9は沈線により縄文帯と無文帯を区分する。12は地文が縄文で、沈線により渦巻文が描き出される。13は底部片で、沈線が垂下する。

SK02（第4・7図）

規模・形状　南北0.8 m×東西0.9 mの円形。**重複関係**　SI01を切る。**壁・床面**　壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは50cm、床面はローム地山。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は9点。1～4は口縁部片である。1は口縁部に横位の沈線をめぐらす。胴部の地文は縄文で、蛇行沈線が垂下する。3は波状口縁で2条の沈線が施される。4は把手部分で押引文が施される。5～9は胴部片である。5は地文が条線で、沈線により無文帯と区分する。6は地文が縄文で、沈線により無文帯と区分する。7は地文が縄文で2条の沈線が垂下する。8は横位に隆帯が貼り付けされ、胴部は沈線により縄文帯と無文帯が区分される。

SK03（第4・7図）

規模・形状　南北0.6 m×東西1.0 mの楕円形。**重複関係**　SI01を切る。**壁・床面**　壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは40cm、床面はローム地山。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は1点。1は



第３図　A地区全体図

胴部片で、微隆起線文により無文帯と縄文帯が区分される。

SK04（第６・７図）

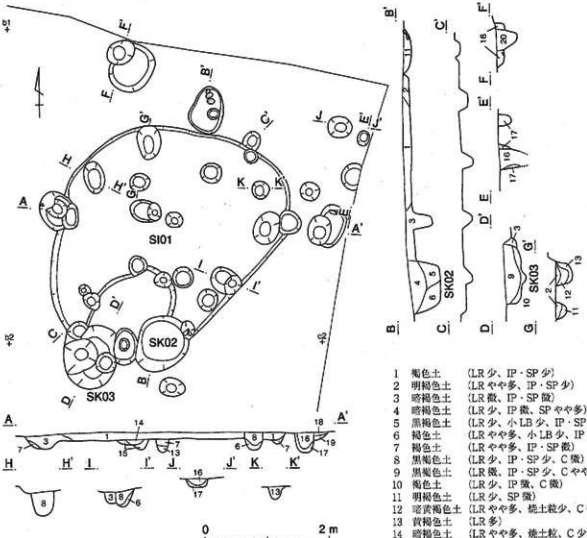
規模・形状　南北 0.6 m×東西 0.8 mの不整形。**重複関係**　SK05 に切られる。**壁・床面**　壁は外傾して立ち上がる。確認面から深さは 40cm、床面はローム地山。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は２点。１・２は胴部片で、１は平行沈線、２は地文が縄文でその上に沈線が描かれる。

SK06（第６・７図）

規模・形状　南北 0.7 m×東西 1.6 mの隅丸長方形。**重複関係**　南西隅をカクランにより切られる。**壁・床面**　壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは 10cm、床面はローム地山。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は１点。１は波状口縁で、隆帯により口縁部と胴部縄文帯が区分される。胎土に金雲母を含む。

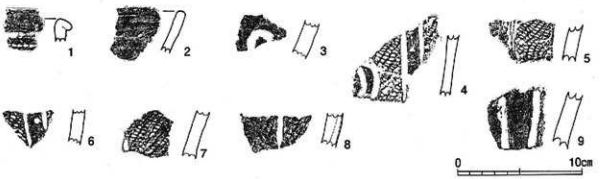
(3)　遺構外出土土器（第８・９図）

１～14 は口縁部片である。１は楕円形区画間に渦巻を形成する。区画内は縦位沈線を充填する。２は沈線により渦巻文が描き出された突起が貼り付けされる。３と４は隆帯による渦巻文。５は地文が縄文で、沈線により楕円区画文が描き出される。胴部と口縁部は沈線により区分され、胴部は沈線が垂下する。６と８は地文が縄文で、沈線により楕円区画文が描き出される。７は地文の縄文の上に隆帯を貼り付ける。胎土に金雲母を含む。９は波状口縁で、地文の縄文の上に隆帯を貼り付ける。胎土に金雲母を含む。10 は微隆起線により口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。11 は蛇行隆帯を貼り付けする。胎土に金雲母を含む。12 は刺突により蛇行線を描き出す。胴部は縄文を施す。胎土に金雲母を含む。13 は波状口縁で、縄文を施す。14 は２列の円形刺突文を施す。15 から 29 は胴部片である。15 は胴部に条線を施す。16 は口縁部と胴部を隆帯により区分し、口縁部には楕円区画文を描き出す。17 と 22 は地文が縄文で、隆帯が貼り付

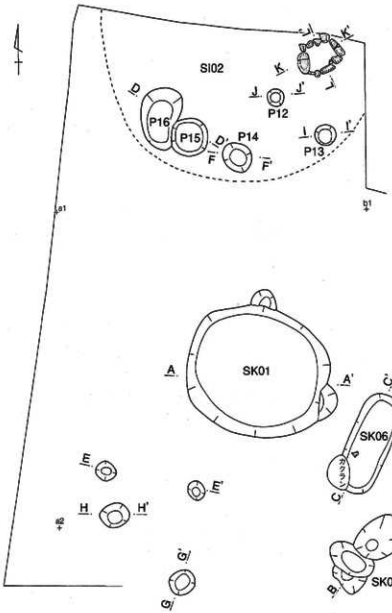


1　褐色土　(LR少、IP・SP少)
2　明褐色土　(LRやや多、IP・SP少)
3　暗褐色土　(LR微、IP・SP微)
4　暗褐色土　(LR少、IP微、SPやや多)
5　黒褐色土　(LR少、小LB少、IP・SP微)
6　褐色土　(LRやや多、小LB少、IP・SP微)
7　褐色土　(LRやや多、IP・SP微)
8　黒褐色土　(LR少、IP・SP少、C微)
9　黒褐色土　(LR微、IP・SP少、Cやや多)
10　褐色土　(LR少、IP微、C微)
11　明褐色土　(LR少、SP微)
12　灰黄褐色土　(LRやや多、焼土粒少、C微)
13　黄褐色土　(LR多)
14　暗褐色土　(LRやや多、焼土粒、C少)
15　暗黄褐色土　(LRやや多、C少)
16　暗褐色土　(LR少、IP少、硬くしまる)
17　暗黄褐色土　(小LBやや多)
18　褐色土　(LR少、C微)
19　明褐色土　(LRやや多)
20　暗褐色土　(LR少、IP・SP少、C微)
L = 123.000m

第4図　A地区東側　平・断面図

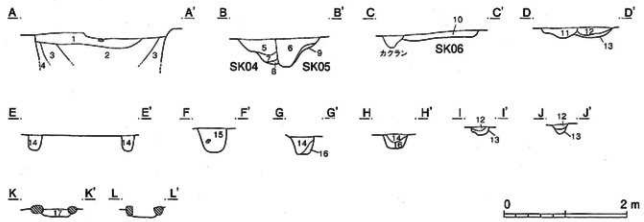


第5図　A地区SI01出土遺物実測図

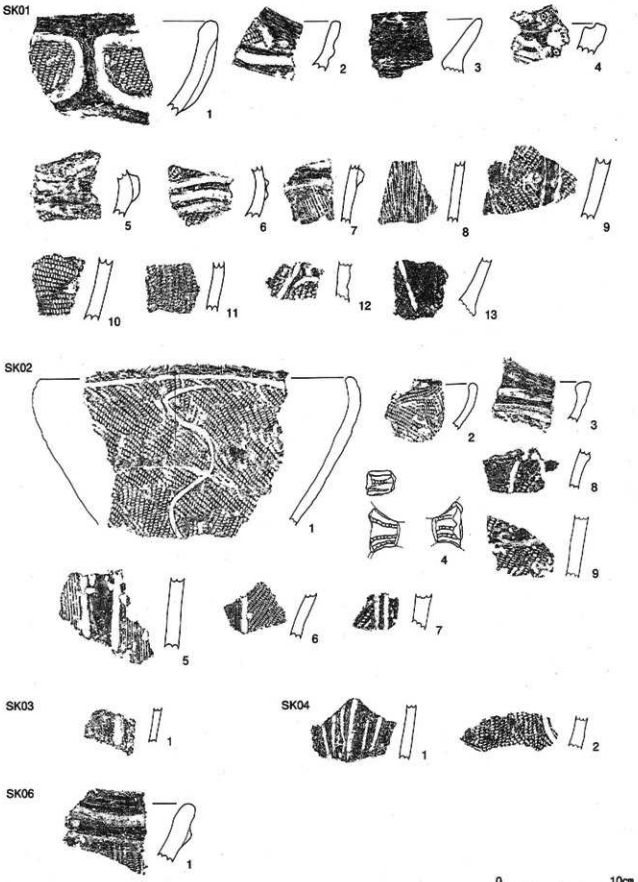


1　暗褐色土　(LR少、IP・SP少、C微)
2　褐色土　(LRやや多、IP・SP少、C少、硬くしまる)
3　黒褐色土　(LR少、IP・SP微)
4　褐色土　(LRやや多、小LB微)
5　暗褐色土　(LR少、IP微、SPやや多)
6　黒褐色土　(LR少、IP・SP少、C微)
7　褐色土　(LRやや多、小LB少、IP・SP微)
8　黄褐色土　(LB多)
9　褐色土　(LR少、IP微、C微)
10　黒色土　(LR微、やわらかい)
11　暗褐色土　(LR少、IP・SP微、C微)
12　褐色土　(LR少、IP・SP微)
13　暗黄褐色土　(LRやや多、IP・SP微)
14　黒褐色土　(LB微、やややわらかい)
15　黒褐色土　(LR少、IP・SP少、C微、硬くしまる)
16　褐色土　(LR微)
17　暗褐色土　(LR微、IP・SP微、滲土粒・C微)

L = A ～ J = 123.000m
K・L = 124.300m

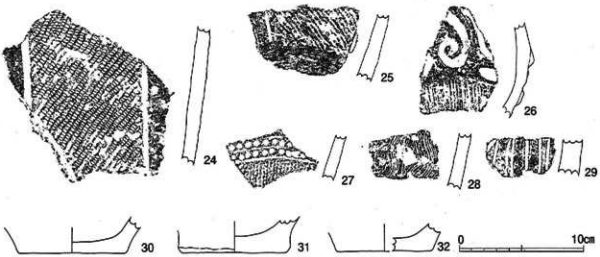


第6図　A地区西側　平・断面図



第7図　A地区SK01～04・06出土遺物実測図

第8図　A地区遺構外出土遺物実測図（1）



第9図　A地区遺構外出土遺物実測図（2）

けられる。18、20、23、24は沈線により縄文帯と無文帯を区分する。19は口縁部と胴部を隆帯により区分し、沈線により胴部縄文帯と無文帯を区分する。21は沈線により縄文帯と無文帯が区分され、蛇行沈線が垂下する。27は沈線により区画された中に円形の刺突文が充填される。28は縦方向の蛇行櫛描文が施される。29は平行沈線が垂下する。30～32は底部片である。

(4) 石器（第10～12図）

①磨石

磨石は13点出土し、形状は楕円形のものである。石質は安山岩のものが多い。

②石鏃

14は先部が欠けているが、形状は凹基で、現存長1.6cm、最大幅1.2cm、厚さ0.3cm、重量1.1g、石質はチャートである。15は形状が凹基で、最大長2.2cm、最大幅0.9cm、厚さ0.3cm、重量0.6g、石質はチャートである。

③多孔石

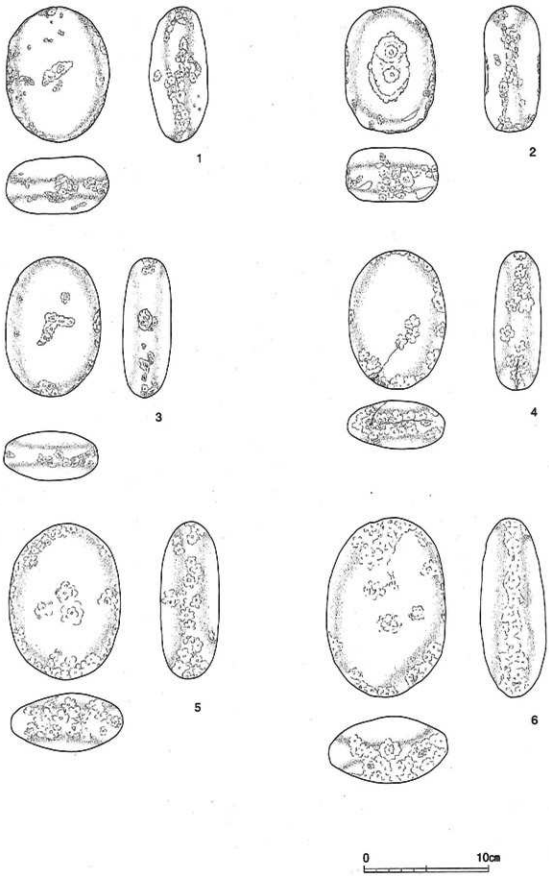
16は長さ28cm、最大幅16cm、最大厚14.2cmの安山岩製の礫で、表裏両面に多数の凹痕が認められた。

④打製石斧

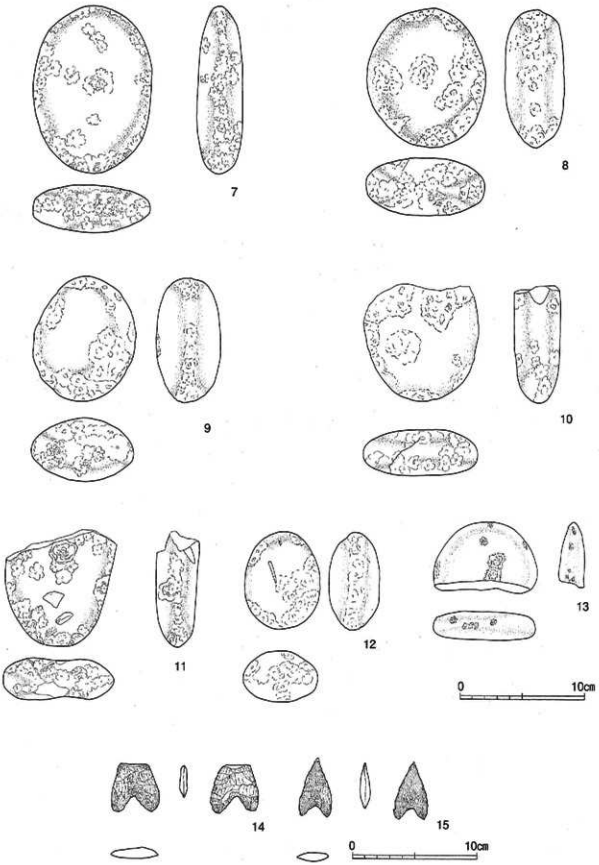
17～21は分銅形の打製石斧である。

No.	種別	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土位置	備考
1	磨石	楕円形	10.8	8.2	4.5	550	玄武岩	表採	
2	磨石	楕円形	10.1	7.5	4.3	430	安山岩	表採	
3	磨石	楕円形	11.1	7.5	3.9	498	花崗岩	表採	
4	磨石	楕円形	11.1	7.8	3.9	435	安山岩	表採	
5	磨石	楕円形	12.4	8.9	4.7	759	花崗岩	表採	
6	磨石	楕円形	14.2	9.6	5.3	982	花崗岩	表採	
7	磨石	楕円形	13.2	9.4	3.8	672	安山岩	表採	
8	磨石	楕円形	11.0	9.5	4.6	718	安山岩	表採	
9	磨石	楕円形	9.9	8.1	5.0	599	安山岩	表採	
10	磨石	楕円形	(9.2)	8.9	3.7	452	安山岩	表採	一部欠損
11	磨石	楕円形	(8.8)	7.9	3.3	296	安山岩	表採	一部欠損
12	磨石	楕円形	7.7	6.0	4.0	223	玄武岩	表採	
13	磨石	楕円形	(5.5)	8.0	2.3	92	安山岩	SI01	一部欠損
14	石鏃	凹基	(1.6)	1.2	0.3	1.1	チャート	表採	一部欠損
15	石鏃	凹基	2.2	0.9	0.3	0.6	チャート	表採	
16	多孔石	楕円形	28.3	16.3	14.0	5,700	安山岩	表採	
17	打製石斧	分銅形	(8.8)	7.8	2.6	182	凝灰岩	表採	一部欠損
18	打製石斧	分銅形	9.7	4.8	1.2	117	安山岩	表採	
19	打製石斧	分銅形	11.3	4.2	2.3	247	流紋岩	表採	
20	打製石斧	分銅形	(5.9)	4.3	1.9	86	砂岩	表採	一部欠損
21	打製石斧	分銅形	(6.0)	4.5	1.8	101	砂岩	表採	一部欠損

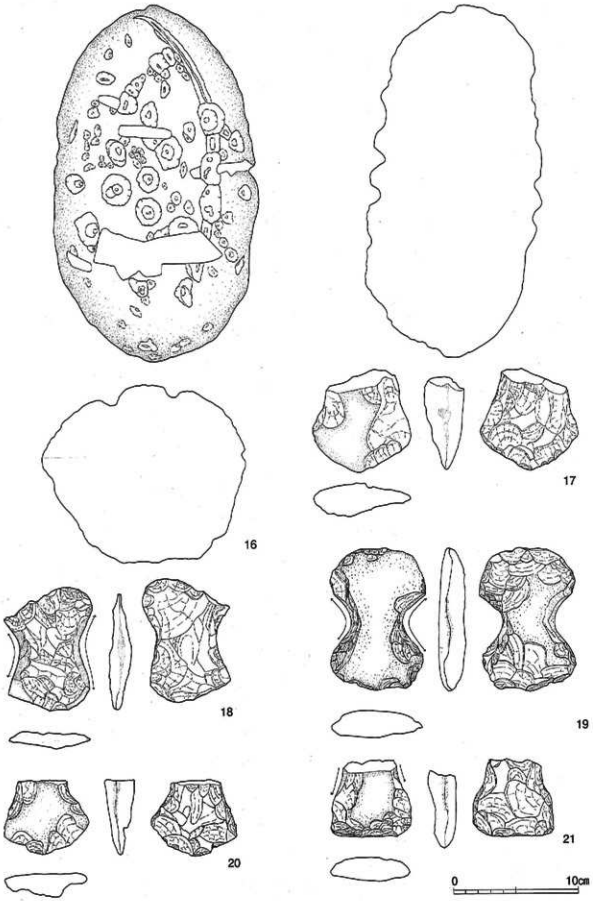
第3表　A地区石器一覧



第10図　A地区出土石器実測図（1）



第11図　A地区出土石器実測図（2）



第12図　A地区出土石器実測図（3）

2．B地区

(1) 竪穴住居跡

SI01（第22・24～27図）

規模・形状 南北 ― m×東西約4mの楕円形。**床面の状況** 床面はローム地山。**壁** 確認面から深さ15cm。**柱穴** 壁際に柱穴がめぐる。**炉** 中央に地床炉1箇所。**重複関係** 北側壁面でSK61を切り、西側壁面でSK06に切られる。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は、ほぼ完形のものが4点、縄文土器片が多数出土。特に1は、住居埋土中にまとまって投棄された状態で出土した。1は口径70cm、現存高82cmで底部を欠く、大形の深鉢形土器である。微隆起線により、口縁部無文帯と胴部縄文帯に区分され、口縁部には4単位の双頭突起をもつ。胴部は微隆起線により縁取られた無文帯が4単位配される。2は口径56cm、器高70cm、底径7.5cmの深鉢形土器である。微隆起線により口縁部無文帯と胴部縄文帯に区分される。胴部下方はナデ消されている。3は口径25cmで、胴部中央に括れをもち口縁部が直線的に開く深鉢形土器である。口縁部に環状の把手が2箇所付き、胴部には沈線で縁取られた縄文帯で「J」字状の曲線的文様が展開する。4は口径31cmで、波状口縁の深鉢形土器である。胴部中央に緩やかな括れをもち、口縁部が緩く内湾する。口縁部に沿って微隆起線を施し、幅の狭い口縁部無文帯をつくる。口縁部微隆起帯と微隆起線文によって区画された「Y」字状の無文帯が口縁部で連繋し、縄文帯区画を構成する。5は波状口縁の口縁部片で、口縁部に沿って微隆起線を施し、幅の狭い口縁部無文帯をつくる。胴部は微隆起線文による無文帯をもつ。6は口縁部片で、地文に羽状の縄文を施した後、沈線で曲線を描く。7は胴部片で、地文の縄文の上に隆帯を2本横方向に貼付ける。8と9は縄文帯と沈線による楕円区画文で、9の胎土中に金雲母を含む。10はキャリパー状の深鉢形土器の胴部片で、縄文を地文とし、一条の沈線が垂下する。11は隆帯に沿うように2条のキャタピラ文を施す。胎土中に金雲母を含む。12と13は底部片で、12は底径6cm、13は底径5.8cmである。14は直径3.5cmの土製円盤である。

SI02（第22・28図）

規模・形状 調査区外にのびるため、規模・形状は不明である。**床面の状況** 床面はローム地山。**壁** 確認面から深さ20cm。**柱穴** 壁柱穴が3本確認された。**炉** 不明。**重複関係** SK08、SK10に切られる。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は、縄文土器片3点、土製円盤1点。1は口縁部片で、隆帯による渦巻文を施し、胎土に金雲母を含む。2は胴部片で、沈線及びそれに沿う微隆起線により縄文と無文帯が区分される。3は底部片で、底径が5.2cmである。4は直径4cmの土製円盤である。

SI03（第22図）

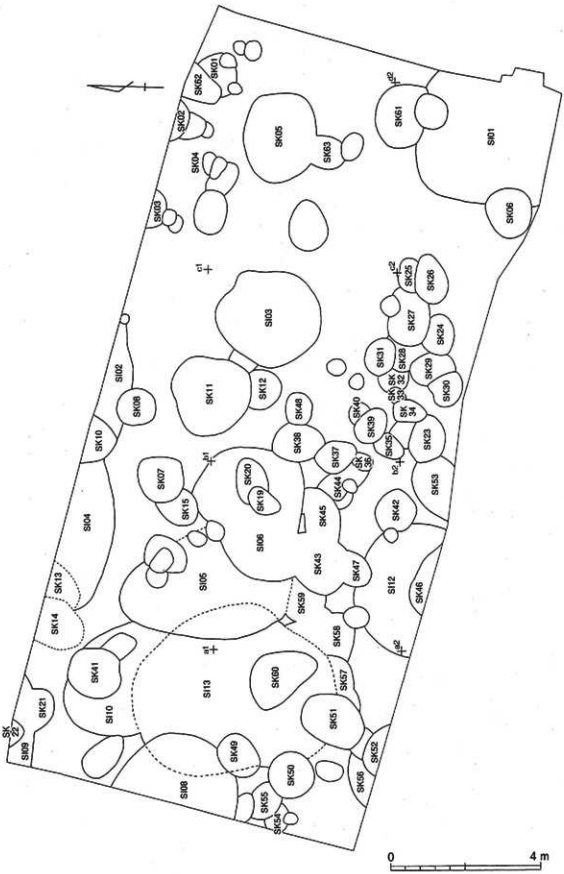
規模・形状 南北2.8m×東西2.7mの円形。**床面の状況** 床面はローム地山。**壁** 確認面から深さ10cm。**柱穴** 壁柱穴が6本確認された。**炉** 不明。**重複関係** 無。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は無い。

SI04（第22・28図）

規模・形状 調査区外にのびるため、規模・形状は不明である。**床面の状況** 床面はローム地山。**壁** 確認面から深さ10cm。**柱穴** 壁柱穴が5本確認された。**炉** 不明。**重複関係** SK10、SK13、SK14に切られる。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は、縄文土器片2点。1は口縁部片で、外面に沈線による渦巻文、及び口唇部に凹線がめぐる。2は直線的に開く無文の浅鉢形土器片である。

SI05（第22・28図）

規模・形状 南北4.5m×東西3.0mの楕円形。**床面の状況** 床面はローム地山。**壁** 確認面から深さ10cm。**柱穴** 壁柱穴が8本確認された。**炉** 不明。**重複関係** SI06、SI13、SK16～SK18に切られる。**覆土の状**


SI01
SI02
SI03
SI04
SI05
SI06
SI08
SI09
SI10
SI11
SI12
SI13
SK01
SK02
SK03
SK04
SK05
SK06
SK07
SK08
SK09
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK15
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK26
SK27
SK28
SK29
SK30
SK31
SK32
SK33
SK34
SK35
SK36
SK37
SK38
SK39
SK40
SK41
SK42
SK43
SK44
SK45
SK46
SK47
SK48
SK49
SK50
SK51
SK52
SK53
SK54
SK55
SK56
SK57
SK58
SK59
SK60
SK61
SK62
SK63
0
4 m

第13図　B地区全体図

況　不明。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片２点。１と２は胴部片で、１の胎土に金雲母を含む。

SI06（第22・28図）

規模・形状　南北2.5ｍ×東西3.5ｍの不整形。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ30cm。**柱穴**　壁柱穴が５本確認された。**炉**　不明。**重複関係**　SI05を切り、SK15、SK19、SK20、SK38に切られる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片５点。１は口縁部片で、外面に２条の曲線を描く。胎土に金雲母を含む。２は口縁部片で、キザミを伴う鍔状の隆帯をめぐらす。隆帯の端部には刻みが施されている。胎土に金雲母を含む。３は口縁部片で、口縁端部に２条の沈線がめぐり、板状の張付けがされる。その外面には縦、横位の沈線が充填される。胎土に金雲母を含む。４は胴部片で、地文に縄文を施し、その上に沈線による渦巻文が描かれる。５は両耳壺形土器片で、両耳部は欠損している。推定口径は26cm。微隆起線で口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。

SI08（第23・29図）

規模・形状　南北3.4ｍ×東西―　ｍの円形。調査区外にのびるため、西側は不明。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ30cm。**柱穴**　壁柱穴が４本確認された。**炉**　不明。**重複関係**　SI13、SK49に切られる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片６点。１は背の窪んだ隆帯による「の」の字状の捩れた把手が付く。尚、この土器はSI13の混入の可能性がある。２は胴部片で、沈線により無文帯と縄文帯を区分する。３は胴部片で、微隆起線に沿って沈線が垂下する。外面に煤が付着している。４は胴部片で地文に縄文が施され、沈線により無文帯を区画する。５は胴部下半で、縄文施文後ナデ消す。６は底部片で底径7.2cm。

SI09（第23図）

規模・形状　調査区外にのびるため、規模・形状は不明である。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ10cm。**柱穴**　不明。**炉**　不明。**重複関係**　SK21を切り、SK22に切られる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は無い。

SI10（第23図）

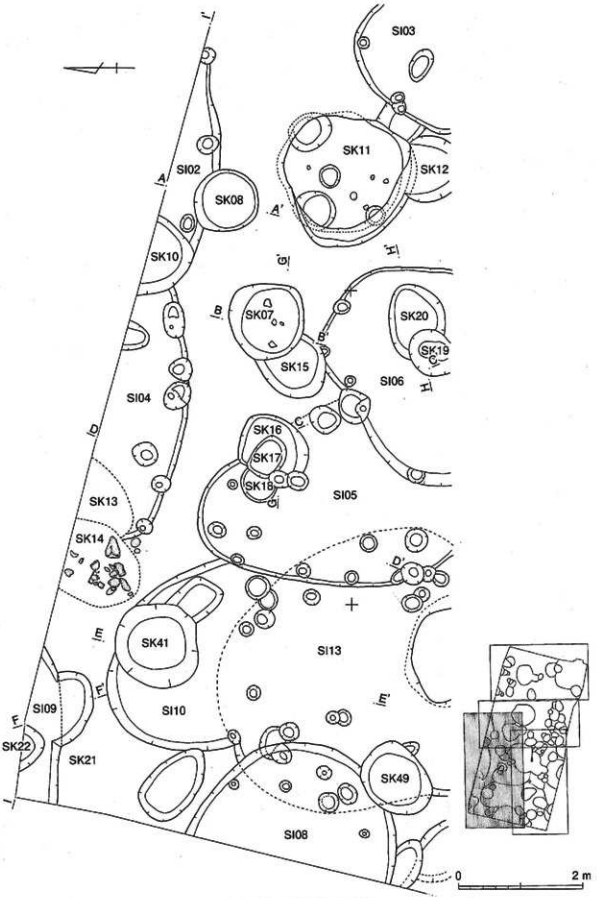
規模・形状　南北4.0ｍ×東西3.0ｍの楕円形。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ10cm。**柱穴**　不明。**炉**　不明。**重複関係**　SI13と切り合う。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は無い。

SI12（第23・29図）

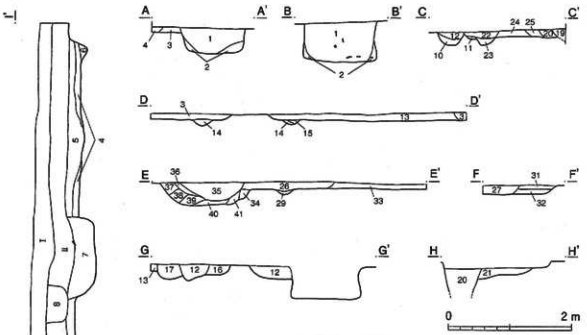
規模・形状　南北―ｍ×東西3.5ｍの円形。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ20cm。**柱穴**　壁柱穴が５本確認された。**炉**　不明。**重複関係**　SK46、SK47を切る。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片１点。１は、波状口縁の深鉢形土器で、推定口径33.5cm。沈線により口縁部と胴部を区分し、口縁部には縄文を充填した楕円区画文が展開する。胴部には沈線を垂下させ、縄文帯と無文帯を交互に配す懸垂文が施される。

SI13（第23・30～32図）

規模・形状　南北5.0ｍ×東西4.0ｍの楕円形。**床面の状況**　床面はローム地山。**壁**　確認面から深さ30cm。**柱穴**　主柱穴４本、壁柱穴10本が確認された。**炉**　住居跡南寄りに石囲炉。**重複関係**　SK49に切られ、SI05、SI08、SK60を切る。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は、縄文土器片18点、土製円盤３点。１は波状口縁の深鉢形土器で、「８」字状の隆帯が貼付された把手が付き、胴部には微隆起線で縁取られたＪ字文が描かれる。３は波状口縁の深鉢形土器で、微隆起線により口縁部無文帯と胴部縄文帯に区分される。胴部は縄文を地文とし、微隆起線で縁取られた渦巻文が上下２段に描かれる。２は口縁部が内傾し、胴部が直線的な深鉢型土器で、外面に縄文が施される。４は波頂部の突起部分で、刺突文が施さ

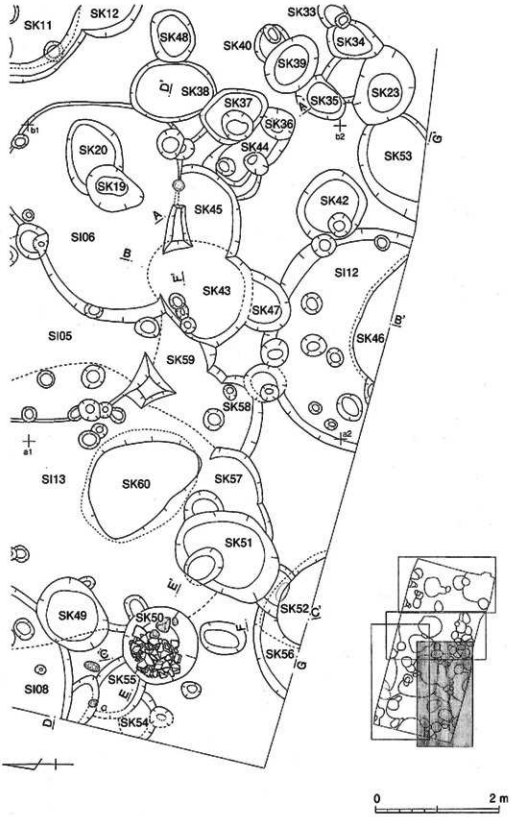


第14図　B地区①　平面図

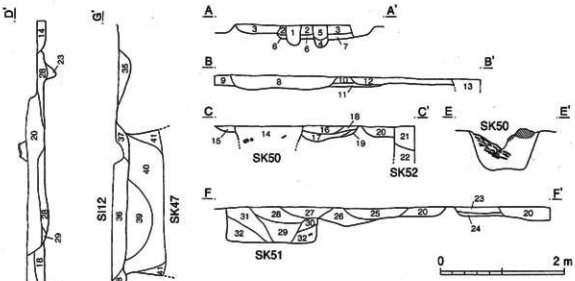


Ⅰ　褐色土　（表層）
Ⅱ　黒褐色土　（IP・SP 微）
1　黒褐色土　（LR 少、小 LB 微、IP・SP やや多、C 微）
2　褐色土　（LR やや多、IP・SP 微）
3　明褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
4　明褐色土　（LR 少、IP やや多、SP 微）
5　褐色土　（LR 微、IP・SP）
6　暗黄褐色土（LR やや多、小 LB 少）
7　暗褐色土　（LR やや多、LB 少、IP・SP 少、C 少）
8　暗灰色土　（LR 微、砂質）
9　暗褐色土　（LR 微、SP 微）
10　褐色土　（LR やや多、IP・SP 少、C 微）
11　褐色土　（LR 少、LB 少）
12　暗褐色土　（LR 少、IP・SP 微、C 微）
13　褐色土　（LR 少、IP・SP 微、C 微）
14　黄褐色土　（LB やや多）
15　明褐色土　（LR やや多、IP・SP 微）
16　明褐色土　（LR やや多、小 LB 微、IP・SP 微）
17　黒褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
18　黒色土　（やわらかい）
19　明褐色土　（LR やや多、小 LB 少）
20　黄色土　（大 LB 多、LR やや多）
21　暗黄褐色土（LR やや多、LB やや多、IPB 少）
22　暗褐色土　（LR やや多、IP・SP 微）
23　明褐色土　（LR やや多）
24　褐色土　（LR 少、IPB 少、小 LB 少）
25　暗黄褐色土（LR やや多）
26　暗褐色土　（LR 微、IP・SP 少、C 微）
27　明褐色土　（LR やや多、IP・SP 微）
28　黒褐色土　（LR 微、IP・SP やや多）
29　褐色土　（LR やや多、IP・SP 少）
30　暗黄褐色土（LR 多、IP 少）
31　明褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
32　暗黄褐色土（LB やや多）
33　褐色土　（LR 少、LB 少、IP・SP 微）
34　黒褐色土　（LR 少、小 LB 少）
35　黄褐色土　（LR 多、小 LB 少、IP 微）
36　明褐色土　（LR やや多）
37　黒褐色土　（LR 少、小 LB 微、IP・SP 微）
38　暗黄褐色土（大 LB、小 LB 少、LR やや多、C 少）
39　褐色土　（LR やや多、IP・SP 微、C 少）
40　暗黄褐色土（LR やや多、LB やや多）
41　黒褐色土　（LR やや多、小 LB 少）
L = A～H = 123.200m
G = 124.000m

第 15 図　B 地区①　断面図

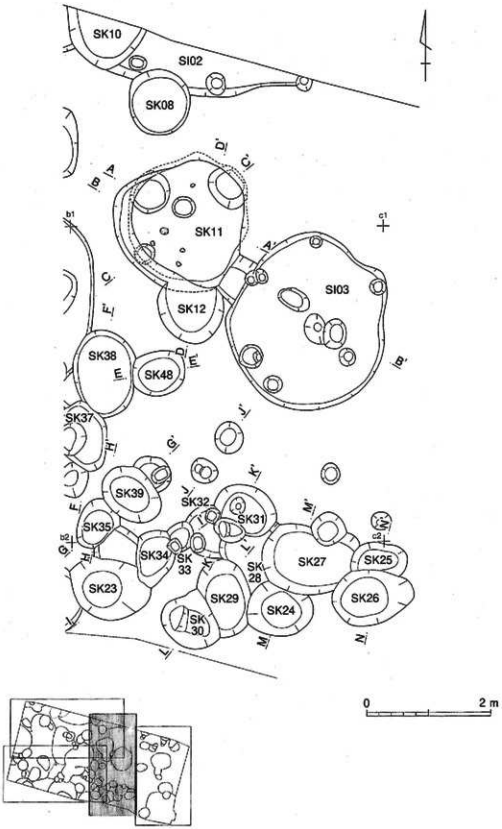


第16図　B地区②　平面図

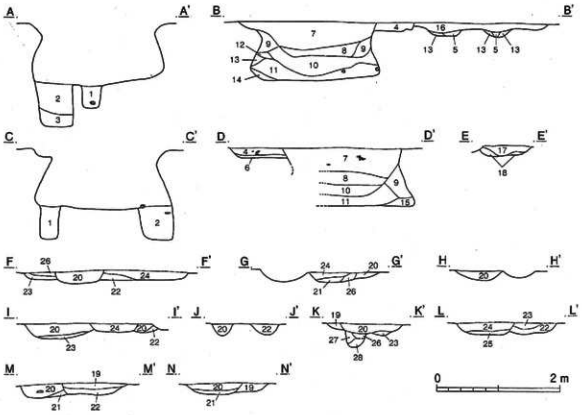


1 黒褐色土 (LR少、IP・SP少)
2 褐色土 (LR・IP・SP少)
3 暗褐色土 (LR少・IP・SP微)
4 暗黄褐色土 (LRやや多)
5 暗褐色土 (LR・IP・SP少)
6 黄褐色土 (LRやや多、LB・IPBやや多)
7 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少、IP・SP微)
8 黒褐色土 (LR少、IP・SPやや多)
9 褐色土 (LRやや多、SP少、IP微)
10 褐色土 (LR少、IP・SP微)
11 明褐色土 (LRやや多、小LB少、IP・SP微)
12 暗褐色土 (LR少、IP・SP微)
13 暗褐色土 (LRやや多)
14 黒褐色土 (LR少、IP・SP・C少)
15 明褐色土 (LR少、IP・SP微)
16 暗褐色土 (LR・IP・SP微)
17 褐色土 (LRやや多、小LB少、IP・SP微)
18 明褐色土 (LRやや多)
19 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少)
20 暗褐色土 (LR少、IP・SP微)
21 褐色土 (LRやや多、小LB・IP・SP微)
22 黒褐色土 (LRやや多、IP・SP微)
23 褐色土 (LR・IP・SP少)
24 褐色土 (LR・IPB・IP少)
25 黒褐色土 (LRやや多、IP・SP微)
26 褐色土 (LRやや多、大LBやや多)
27 暗褐色土 (LR微、IP・SP少)
28 褐色土 (LRやや多、IP・SP微)
29 暗黄褐色土 (LR多、小LB・IP・SP微)
30 暗褐色土 (LR少、IP・SP微)
31 褐色土 (LRやや多、IP・SP少)
32 暗褐色土 (LRやや多、小LB微)
33 黒褐色土 (LR少、IP・SP微)
34 黒褐色土 (LRやや多、小LB少)
35 褐色土 (LR・IP・SP少)
36 明褐色土 (LRやや多、IP・SP少)
37 暗褐色土 (LR少、IP微)
38 暗褐色土 (LR少、小LB・IP・SP微)
39 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少)
40 黒褐色土 (LRやや多、小LB少、IP・SP微)
41 褐色土 (LR・小LBやや多)
42 暗黄褐色土 (LR多、小LB・IP・SP微)
43 明褐色土 (LRやや多、小LB少)
44 暗褐色土 (LR・小LBやや多)
45 黒褐色土 (LRやや多、小LB少、IP・SP微)
L = 123.200m

第17図 B地区② 断面図



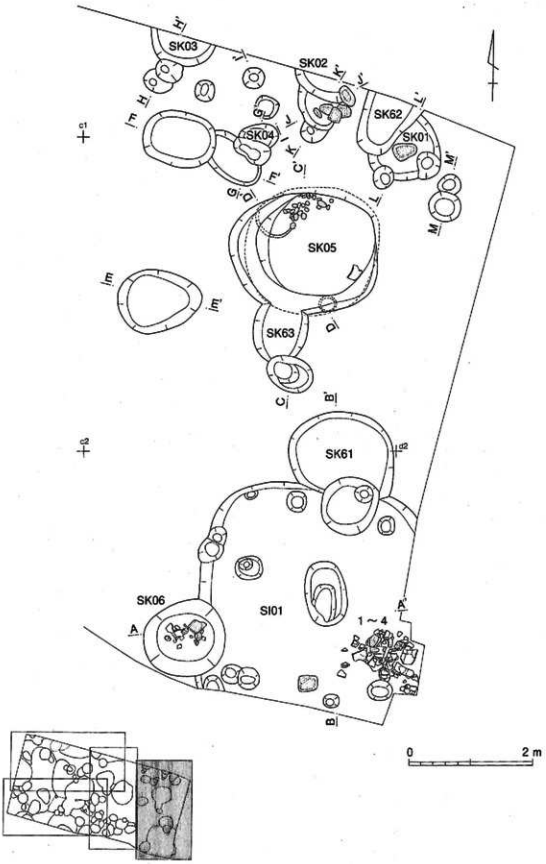
第18図　B地区⑤　平面図



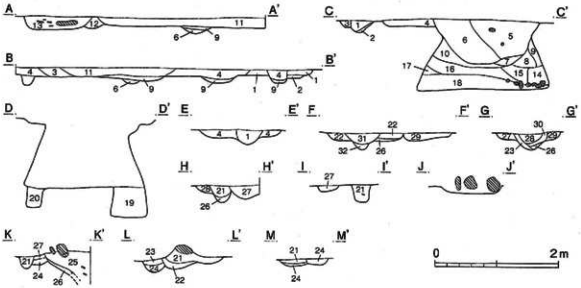
1　暗黄褐色土（LR 多、LB やや多）
2　黄色土　（LR・LB 多）
3　黒褐色土　（LR やや多、粘性）
4　明褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
5　褐色土　（LR 微、IP・SP 微）
6　明褐色土　（LR やや多、小 LB 少、IP・SP 微）
7　暗褐色土　（LR 少、IP・SP 微、C・焼土粒少）
8　褐色土　（LR やや多、IP・SP 微、C・焼土粒少）
9　黒褐色土　（LR・小 LB 少、IP・SP 微）
10　暗黄褐色土（LR やや多、IP・SP 少、粘性）
11　暗褐色土　（LR・小 LB・C・焼土粒少、粘性）
12　暗褐色土　（LR やや多、IP 微）
13　暗黄褐色土（LR やや多、小 LB 少、IP・SP 微）
14　黄色土　（LR 多）
15　黒褐色土　（LR やや多、小 LB 少）
16　暗褐色土　（LR 微、IP・SP 少）
17　褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
18　明褐色土　（LR やや多、小 LB 少、IP・SP 微）
19　褐色土　（LR やや多、IP・SP 少、C 微）
20　黒褐色土　（LR 少、IP・SP 少）
21　褐色土　（LR やや多、小 LB 少、IP・SP 微）
22　明褐色土　（LR やや多、小 LB 少）
23　褐色土　（LR・IP・SP 少）
24　暗褐色土　（LR 少、IP・SP 微）
25　褐色土　（LR 少、小 LB やや多、IP・SP 微）
26　暗褐色土　（LR 少）
27　暗黄褐色土（LR やや多）
28　黄色土　（LB 多）

L = 123.100m

第19図　B地区③　断面図



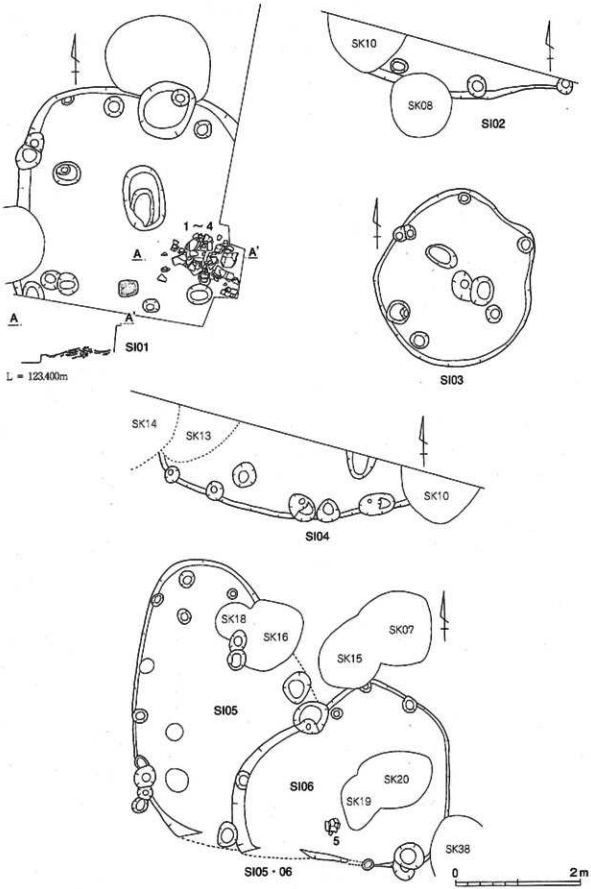
第20図　B地区④　平面図



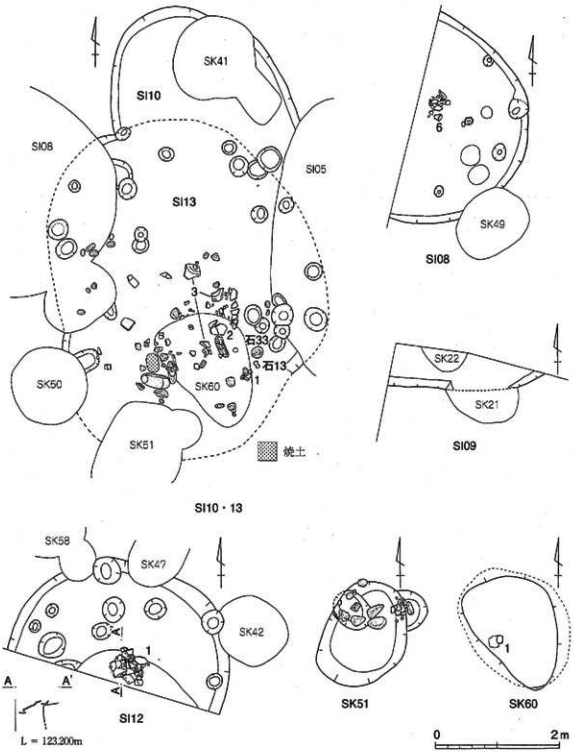
1　褐色土　（LR少、IP・SP微）
2　褐色土　（LRやや多、小LB少、IP微）
3　明褐色土　（LR少、IP・SP微）
4　暗褐色土　（LR少、IP・SP微）
5　暗褐色土　（LRやや多、焼土粒・C・IP・SP微、粘性あり）
6　明褐色土　（LRやや多、C・焼土粒・IP・SP少、粘性あり）
7　黒褐色土　（LRやや多）
8　黄褐色土　（LR多、LBやや多）
9　暗褐色土　（LRやや多、小LB微）
10　暗褐色土　（LR少、小LB微）
11　黒褐色土　（LR・IP・SP少、焼土粒微）
12　明褐色土　（LRやや多、IP・SP微）
13　暗褐色土　（LR・IP・SP少、焼土粒微）
14　黄色土　（LB多）
15　暗褐色土　（LR・LBやや多、IP・SP微）
16　暗褐色土　（LRやや多、IP・SP・焼土粒・C少、粘性）
17　暗黄褐色土　（LR・小LBやや多）
18　暗黄褐色土　（LR多、小LB・C少、粘性）
19　暗褐色土　（LR多、LBやや多）
20　黄色土　（LR・LB多）
21　暗褐色土　（LR少、IP・SP微）
22　褐色土　（LRやや多、IP・SP微）
23　暗褐色土　（LRやや多、SP微）
24　褐色土　（LRやや多、小LB少、IP微）
25　暗褐色土　（LRやや多、焼土粒・C少、土器片）
26　暗黄褐色土　（LR多、小LB少）
27　褐色土　（LR少、IP・SP微）
28　黒褐色土　（LR少、IP・SP微）
29　明褐色土　（LRやや多、IP・SP微）
30　暗褐色土　（LRやや多、C少）
31　黒褐色土　（LRやや多、小LB少、IP・SP微）
32　暗黄褐色土　（LR・小LBやや多、IP・SP微）

L＝A～D＝123.100m
E～M＝123.200m

第21図　B地区④　断面図

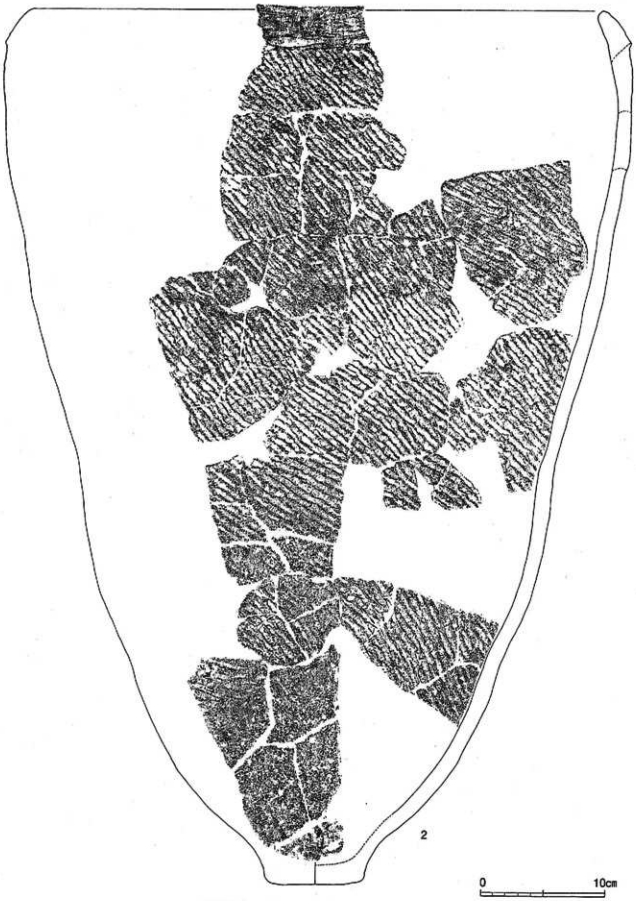


第22図　B地区SI01～06　平面図

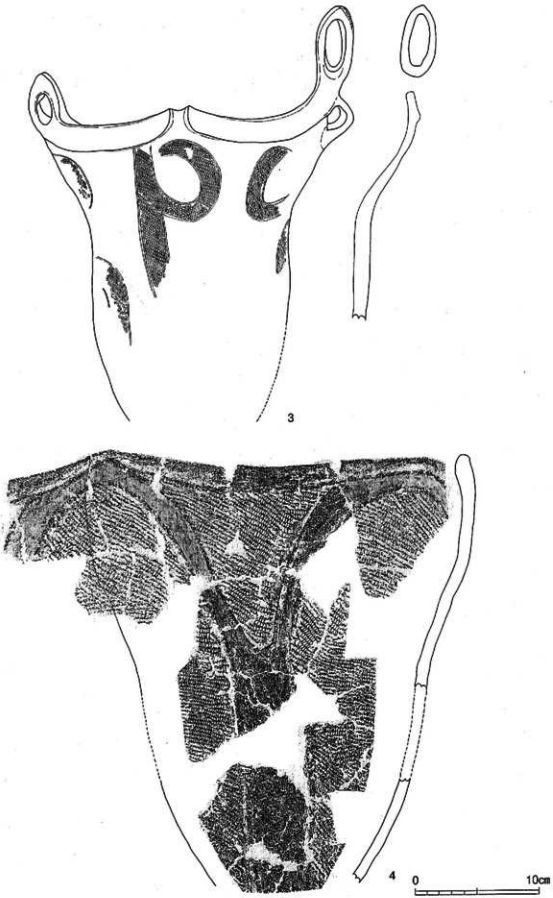


第23図　B地区SI08～10・12・13、SK51・60　平面図

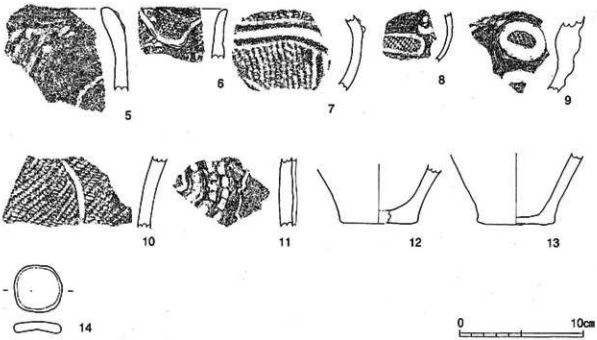
第24図　B地区 SI01　出土土器実測図（1）



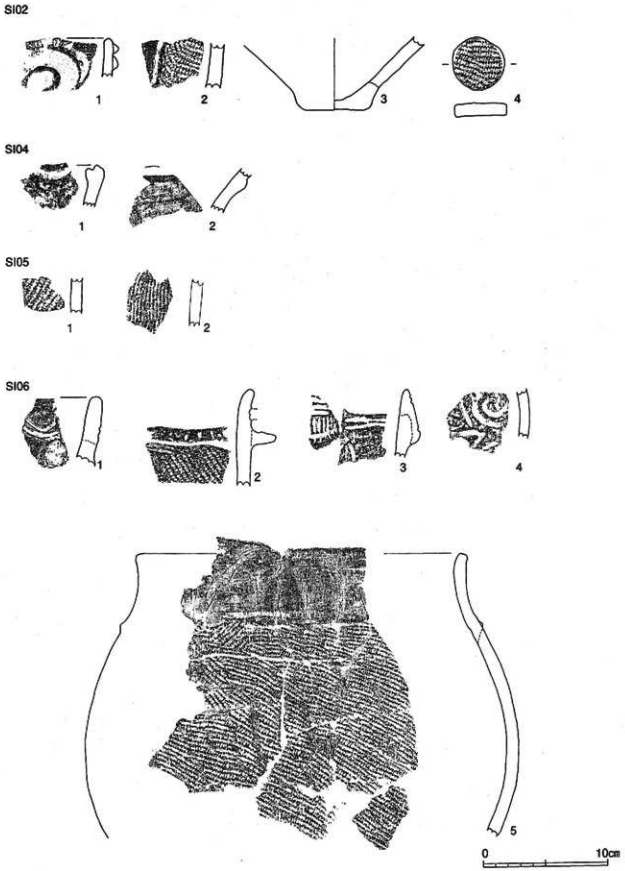
第25図　B地区 SI01 出土遺物実測図 (2)



第26図　B地区 SI01 出土遺物実測図（3）

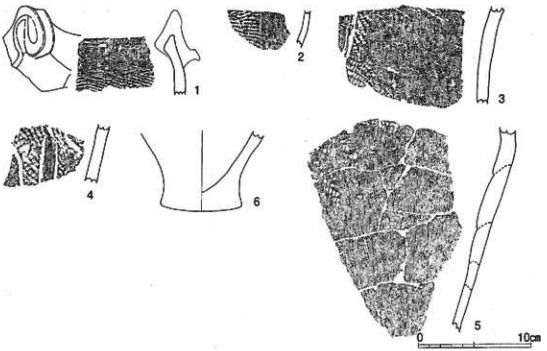


第27図　B地区SI01出土遺物実測図（4）

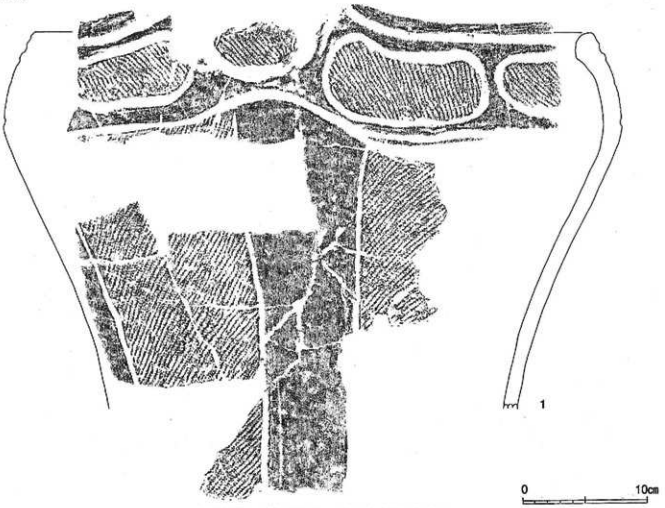


第28図　B地区SI02・04～06出土遺物実測図

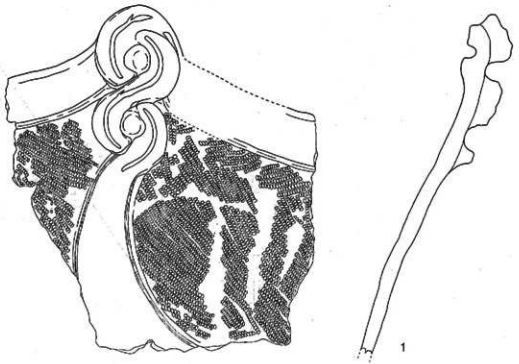
SI08

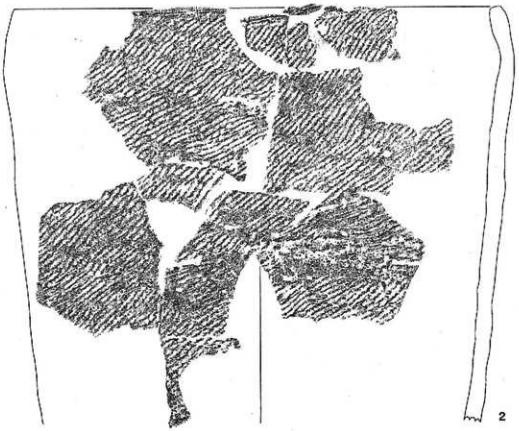


SI12



第29図　B地区SI08・SI12出土遺物実測図

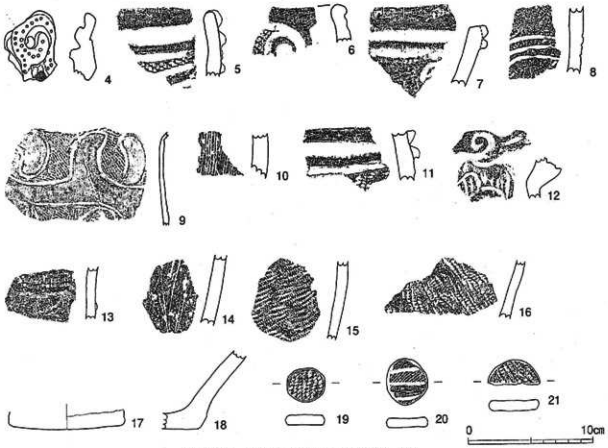




0　10cm

第30図　B地区SI13出土遺物実測図（1）

第31図　B地区SI13出土遺物実測図（2）



第32図　B地区SI13出土遺物実測図（3）

れる。5は口縁部片で、地文に縄文を施し、3条の隆帯が貼り付けられる。6は口縁部片で隆帯とそれに沿う沈線による渦巻文。7は口縁部片で、2条の隆帯が貼り付けされる。胎土に金雲母を含む。8は胴部片で、3条の沈線が描かれている。胎土に金雲母を含む。9は胴部片で、地文の縄文上に沈線で縁取られた無文帯の文様が展開する。10は胴部片で条線文が施される。11は地文が縄文で、その上に2条の隆帯が貼付される。胎土に金雲母を含む。12は口縁部片で小さな突起上に沈線による渦巻文が描かれる。13は胴部片で、クランク状の微隆起帯に沿うように角押文が2列に施される。15と16は胴部片、17と18は底部片、19～21は土製円盤である。

(2) 土坑

SK01（第20・33図）

規模・形状 南北1.1 m×東西1.2 mの不整形。**重複関係** SK62に切られる。**壁・床面** 確認面からの深さは20cm、床面はローム地山。**覆土の状況** 自然堆積。覆土上層に河原石を含む。**遺物** 実測可能な遺物は、底部片が1点で、底径6.5cm。

SK02（第20・33図）

規模・形状 南北-m×東西1.3 mの円形。北側は調査区外。**重複関係** ピットを切る。**壁・床面** 確認面からの深さは50cm以上。**覆土の状況** 自然堆積、覆土上層に河原石を含む。**遺物** 実測可能な遺物は3点。1は渦巻状の突起部分。2は胴部片で、地文の縄文に隆帯を貼り付ける。3は直径3.5cmの土製円盤。

SK03（第20図）

規模・形状 南北－m×東西1.1 mの円形。**重複関係** ピットを切る。**壁・床面** 壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは20cm、床面はローム地山。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は無い。

SK05（第20・33図）

規模・形状 南北1.85 m×東西2.4 mの楕円形。**重複関係** SK63を切る。**壁・床面** 断面は袋状を呈し、確認面からの深さが1.1 m、床面はローム地山で、2か所の小ピットをもつ。**覆土の状況** 自然堆積、床面近くで小ぶりの河原石が集中して出土している。**遺物** 実測可能な遺物は15点。1～6は口縁部片である。1は3列の角押文が施される。口縁端部に小孔を穿つ。2は地文に条線文を施し、隆帯を貼り付けた後、ペン先状工具により連続刺突文を施す。3は隆帯を貼り付け後、それに沿って沈線が施される。4は口縁端部に沈線をもち、蛇行隆帯が貼付され、下段の隆帯には刺突文が施される。5は隆沈線により渦巻文が描かれる。6は隆帯に沿って単列の爪形文が施される。胎土に金雲母を含む。7～15は胴部片である。7は隆帯により文様を区画しその中を沈線により充填する。8は地文が条線文で、平行沈線文や波状文が施される。9と11は地文が縄文で、3条の沈線文が垂下する。10は隆帯に沿って3条の沈線が垂下する。12は地文が縄文で、横位に3条の沈線が描かれる。15は胴部の地文が縄文で3～4本の横位の沈線が施される。

SK06（第20・34図）

規模・形状 南北1.2 m×東西1.3 mの楕円形。**重複関係** SI01を切る。**壁・床面** 確認面からの深さが0.2 mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況** 自然堆積、覆土中層で河原石や土器片が多く出土した。**遺物** 実測可能な遺物は6点。1～3は口縁部片である。1と2は同一個体と思われる。双頭突起状の波状口縁をもつ深鉢形土器で、微隆起線により縄文帯と無文帯を区分する。3は隆沈線で渦巻状モチーフを描き出す。4・5は胴部片である。4は微隆起線により縄文帯と幅広の無文帯を区分する。6は底部片で、底径7.0cmである。

SK07（第14・34図）

規模・形状 南北1.2 m×東西1.15 mの不整円形。**重複関係** SK15を切る。**壁・床面** 確認面からの深さが0.5 mで、床面は平坦で、壁はややオーバーハングして立ち上がる。**覆土の状況** 自然堆積。**遺物** 実測可能な遺物は9点。1～3は口縁部片である。1は波状口縁で、地文の縄文上に沈線による直線文と曲線文が描かれる。2は蛇行隆帯が貼り付けされ、口唇部に連続キザミが施される。3は隆沈線により渦巻状モチーフが描き出される。4～8は胴部片である。4は地文が縄文で、蛇行沈線文が垂下する。5は隆帯により縄文帯と無文帯を区分する。6は上半部が縄文で下半が条線文である。8は地文の縄文上に平行沈線が描かれる。胎土に金雲母を含む。9は底部片で、底径9.0cmである。

SK10（第14・34図）

規模・形状　南北－m×東西1.3mの楕円形。**重複関係**　SI02・SI04を切る。**壁・床面**　深さが0.4mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は3点。いずれも覆土中の出土であり、遺構に伴うものかは不明。1～3は胴部片で、1が条線文、2が地文の縄文に隆沈線による渦巻文、3は縄文で、胎土に金雲母を含む。

SK11（第18・35図）

規模・形状　南北1.8m×東西2.0mの円形。**重複関係**　SK12を切る。**壁・床面**　深さが約1mで、断面袋状を呈する。床面には4つの小ピットをもつ。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は29点。1～18は口縁部片である。1は胴部と口縁部を隆帯で区分し、口縁部は沈線による複弧文、胴部は縄文。2は地文の縄文の上に隆沈線が施される。3～8は地文の縄文の上に隆沈線による渦巻文が施される。9は隆帯により渦巻モチーフが描き出される。10は口縁端部に蛇行隆帯が貼り付けられ、その下は縦位の沈線が施される。11は縦位の沈線が施される。10と11は胎土に金雲母を含む。12は波状口縁で地文の縄文の上及び口縁端部に沈線が施される。13は地文の縄文の上に隆帯が貼り付けされる。14は交互刺突文が施される。15は波状口縁で、縄文が施される。胎土に金雲母を含む。16は隆帯により区画された中に沈線による山形文が描かれる。17は波状口縁で、隆帯に沿って爪形文が施される。胎土に金雲母を含む。18は小ピット内からの出土で、刺突文や沈線文が施される。器面には赤と黒の漆が塗られる。19～29は胴部片である。19と22は地文の縄文の上に隆沈線文が施される。20と21は地文の縄文の上に沈線による渦巻文が施される。23は地文の縄文の上に3状の沈線が垂下する。24は地文の縄文の上に2条の沈線と刺突文が施される。25は横位の平行沈線文が施される。26は地文が縄文で横位の平行沈線と蛇行沈線が施される。27は地文の縄文の上に沈線文が施される。28は地文の縄文の上に沈線及び蛇行沈線が垂下する。29は爪形文が施される。

SK14（第14・36図）

規模・形状　南北－m×東西1.1mの楕円形。**重複関係**　SI04・SK13を切る。**壁・床面**　深さが0.3mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。上層に川原石を多く含む。**遺物**　実測可能な遺物は1点。1は注口土器で、口縁部と胴部は微隆起線により区分し、円形刺突文が2列に施される。注口部に渦巻状の把手が付く。把手部にも円形刺突文が施される。胴部は縄文。

SK21（第14・36図）

規模・形状　南北－m×東西1.1mの円形。**重複関係**　SI09に切られる。**壁・床面**　深さが0.15mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は2点。1と2は口縁部片で、1は地文の縄文に2条の沈線が描かれ、2は地文の縄文に口唇部に刺突文がめぐる。

SK23（第18・36図）

規模・形状　南北1.0m×東西1.2mの楕円形。**重複関係**　SK53を切り、SK34に切られる。**壁・床面**　深さが0.25mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は5点。1と2は口縁部片である。1は波状口縁で地文の縄文の上に2条の沈線により山形状の文様が描かれる。2は沈線により口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。3と4は胴部片である。3は縄文、4は条線文。5は底部片で、底径5.2cmである。

SK24（第18・36図）

規模・形状　南北0.5m×東西0.9mの楕円形。**重複関係**　SK27に切られる。**壁・床面**　深さが0.2mで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は5点。1

と２は口縁部片である。１は波状口縁で、胎土に金雲母を含む。２は条線文が施される。３は隆帯が２条貼り付けられる。４と５は胴部片である。４は沈線により縄文帯と無文帯を区分する。

SK25（第18・36図）

規模・形状　南北0.9ｍ×東西1.1ｍの楕円形。**重複関係**　SK27・SK25を切る。**壁・床面**　深さが0.2ｍで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は３点。１は波状口縁部片で、沈線により楕円区画文が描き出される。２と３は胴部片である。２は条線文、３は地文が縄文で３本の沈線が垂下する。

SK39（第18・36図）

規模・形状　南北0.75ｍ×東西1.0ｍの楕円形。**重複関係**　SK35・SK40を切る。**壁・床面**　深さが0.15ｍで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は１点。１は胴部片である。

SK42（第16・36図）

規模・形状　南北1.0ｍ×東西1.1ｍの円形。**重複関係**　SI12と切り合う。**壁・床面**　床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は１点。１は波状口縁部片で、縦位の沈線が施される。胎土に金雲母を含む。

SK46（第16・37図）

規模・形状　南北－ｍ×東西2.0ｍの円形。**重複関係**　SI12に切られる。**壁・床面**　確認面からの深さが１ｍ以上で、袋状を呈する。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は13点。１・２、５～10は口縁部片である。１は口縁部に隆帯がめぐり、胴部は地文を縄文とし、蛇行沈線と渦巻と左右対称の刺状モチーフを有する沈線を交互に垂下させる。２は１と同一個体と考えられる。３と４は胴部片で、地文を縄文とし、３条の沈線が垂下する。５は口縁部に隆帯を貼り付け、胴部は縄文が施される。６は地文を縄文とし、隆沈線が施される。７は波状口縁で、胎土に金雲母を含む。８は隆帯と沈線により方形に区画された中を短沈線が充填される。９は湾曲する口縁上端部が鋭く外反する。外面に沈線及び蛇行隆帯が施される。胎土に金雲母を含む。10は複列の結節沈線文が施される。胎土に金雲母を含む。11～13は胴部片である。11は地文を縄文とし、平行沈線が描き出される。12は沈線により縄文帯と無文帯が区分される。胎土に金雲母を含む。13は条線文が施される。

SK49（第16・37図）

規模・形状　南北1.2ｍ×東西1.0ｍの楕円形。**重複関係**　SI08・SI13を切る。**壁・床面**　深さが0.6ｍで、断面が袋状を呈する。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は２点。１と２は胴部片である。１は微隆起線により縄文帯と無文帯を区分する。

SK50（第16・38～40図）

規模・形状　直径1.2ｍの円形。**重複関係**　SK55・SI13と切り合う。**壁・床面**　深さが0.6ｍで、床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。覆土中層より、土器が投棄された状況で多量に出土。**遺物**　実測可能な遺物は11点。１は、口径42cm、器高65cm、底径8.4cmの深鉢形土器で、微隆起帯で口縁部無文帯と胴部を区分し、胴部には上位を横方向、中～下位を縦方向に縄文が施される。２は、口径27.2cm、器高29cm、底径７cmのキャリパー状の深鉢形土器で、微隆起帯で口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。３は、口径37cmの深鉢形土器で、胴部中位で緩やかに括れ、口縁部で内湾する。微隆起帯で口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。４は、口径49cmの深鉢形土器で、胴部中位で緩やかに括れ、口縁部で内湾する。口縁部には突起が貼付される。微隆起帯で口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分し、胴部

は口縁部微隆起帯と微隆起帯によって区画された「Y」字状の無文帯が口縁部で連繋し、「U」字状・逆「U」字状の縄文帯を構成する。5と6は波状口縁部片で、微隆起線により口縁部無文帯と胴部縄文帯を区分する。8は地文が縄文で、平行沈線文、曲線文が描き出される。10は3条の隆帯が貼付される。11は土製円盤。

SK51（第16・41図）

規模・形状　南北1.7m×東西1.3mの楕円形。**重複関係**　SK57・SI13と切り合う。**壁・床面**　深さが0.5mで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。**覆土の状況**　人為堆積。**遺物**　実測可能な遺物は8点。1は口縁部片で、隆帯を貼り付け、縦位と横位の沈線が施される。胎土に金雲母を含む。2～8は胴部片である。2は隆帯を貼り付け、胴部は縄文が施される。3は縦位の沈線文。4は地文が撚糸文で、沈線が垂下する。5は地文が縄文で、沈線が垂下する。

SK52（第16・41図）

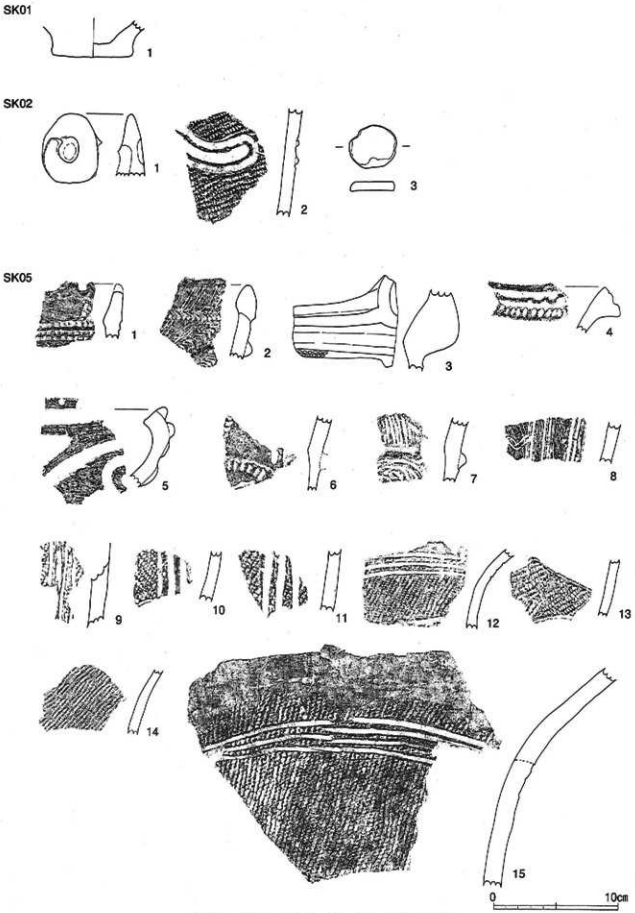
規模・形状　東西1.4mの円形で、一部調査区外。**重複関係**　SK56・SK61を切る。**壁・床面**　深さが1.0m以上で、袋状を呈する。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は4点。1は隆帯が貼り付けられ、胎土に金雲母を含む。2は刺突文。3は地文に縄文を施し、沈線文が施される。4は底部片である。

SK55（第16・41図）

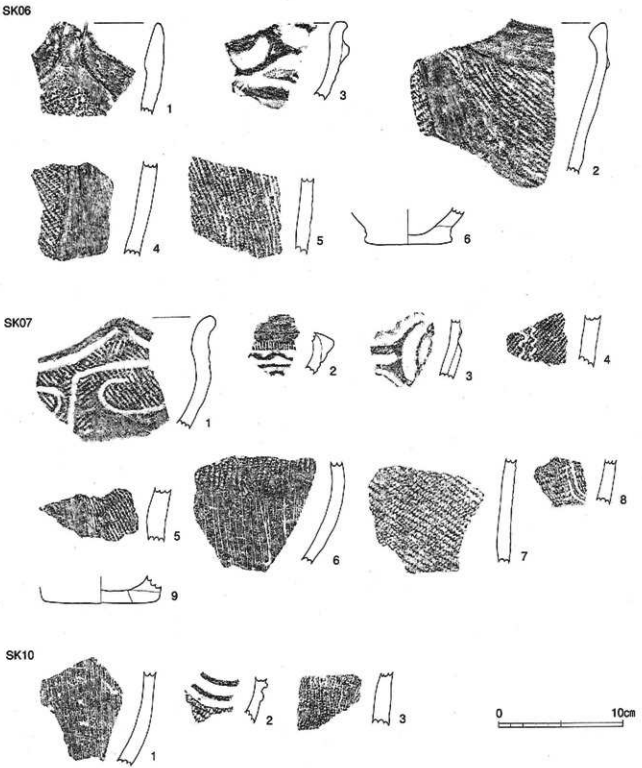
規模・形状　南北0.7m×東西1.1mの楕円形。**重複関係**　SK54・SK55と切り合う。**壁・床面**　床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は1点。1は胴部片で、沈線により無文帯と縄文帯を区分する。

SK60（第16・41図）

規模・形状　南北1.8m×東西1.3mの楕円形。**重複関係**　SI13に切られる。**壁・床面**　深さが0.95mで、袋状を呈する。**覆土の状況**　自然堆積。**遺物**　実測可能な遺物は4点。1は頸部片で、隆帯により口縁部と胴部を区分し、口縁部は複弧文が施される。2は口縁部片で隆沈線による渦巻文が施される。3は沈線が施される。胎土に金雲母を含む。4は胴部片で地文に縄文を施し、蛇行沈線が垂下する。

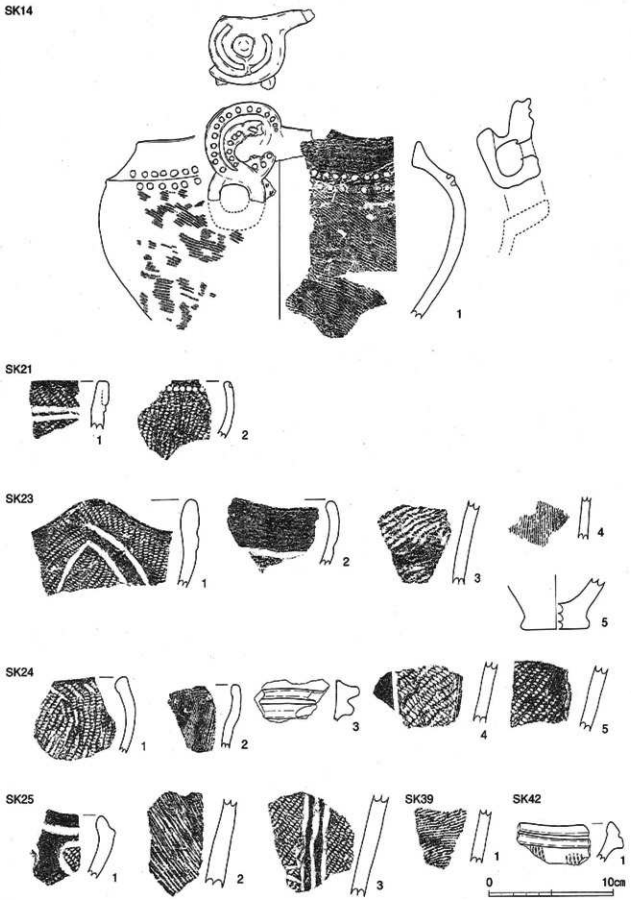


第33図　B地区SK01・02・05　出土遺物実測図

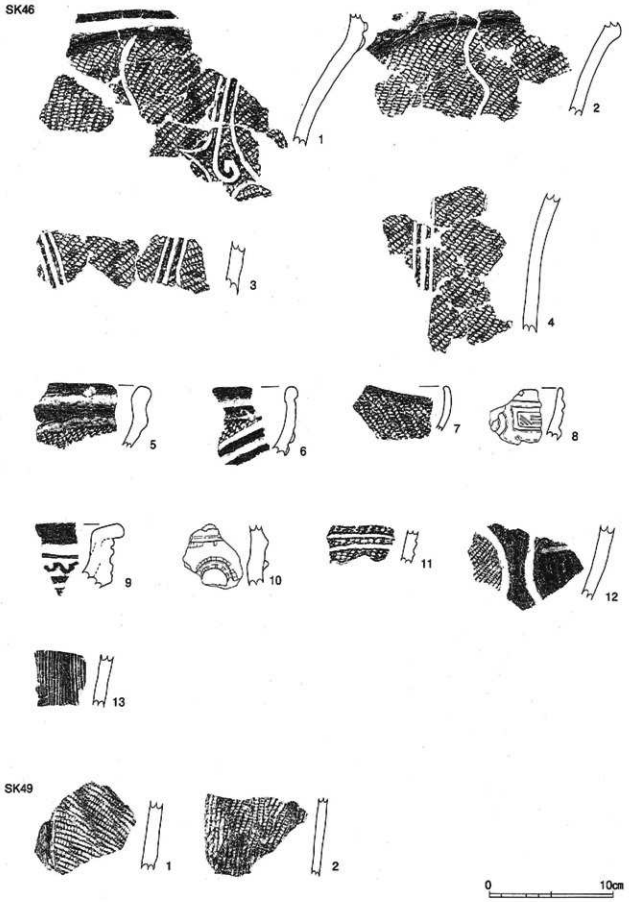


第34図　B地区SK06・07・10　出土遺物実測図

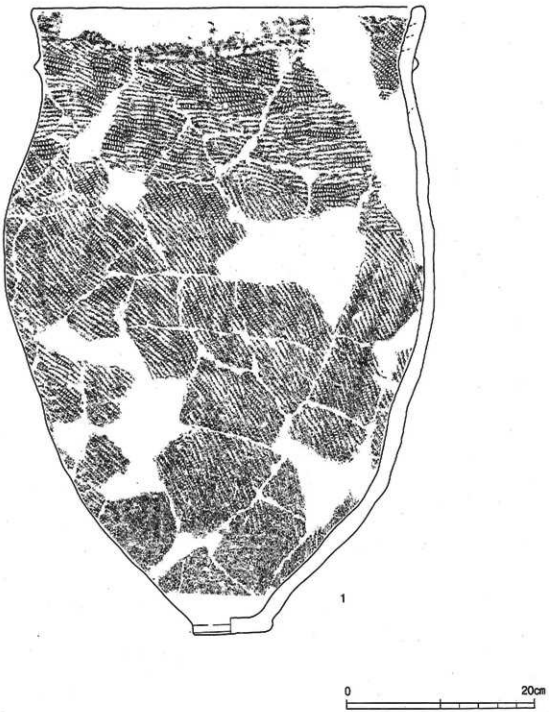
第35図　B地区SK11出土遺物実測図



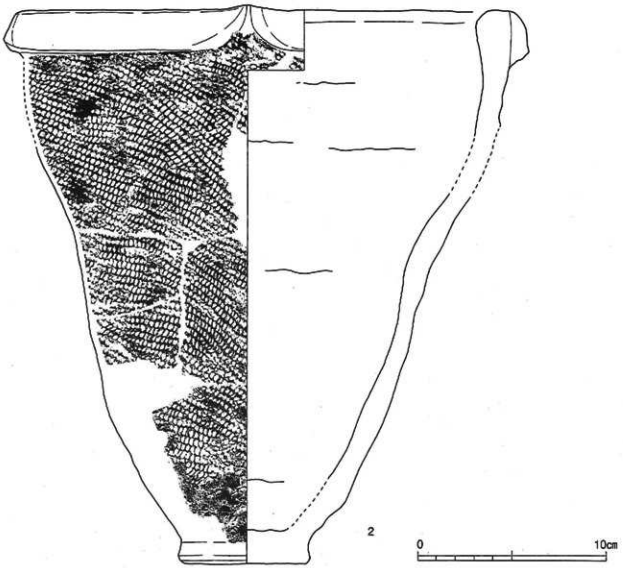
第36図　B地区SK14・21・23～25・39・42出土遺物実測図

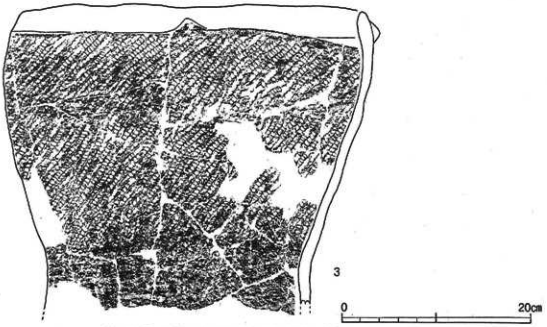


第37図　B地区SK46・49出土遺物実測図

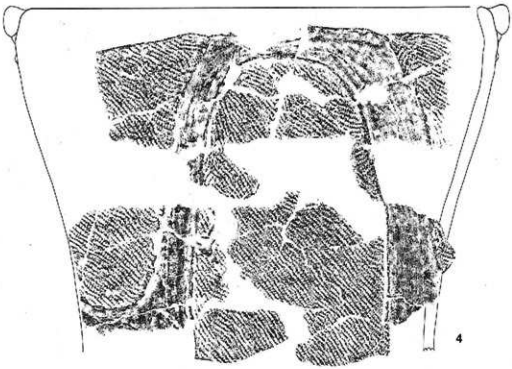


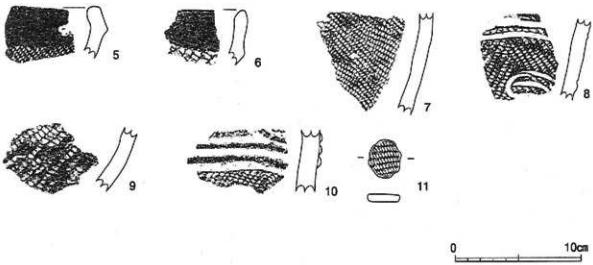
第38図　B地区SK50出土遺物実測図（1）



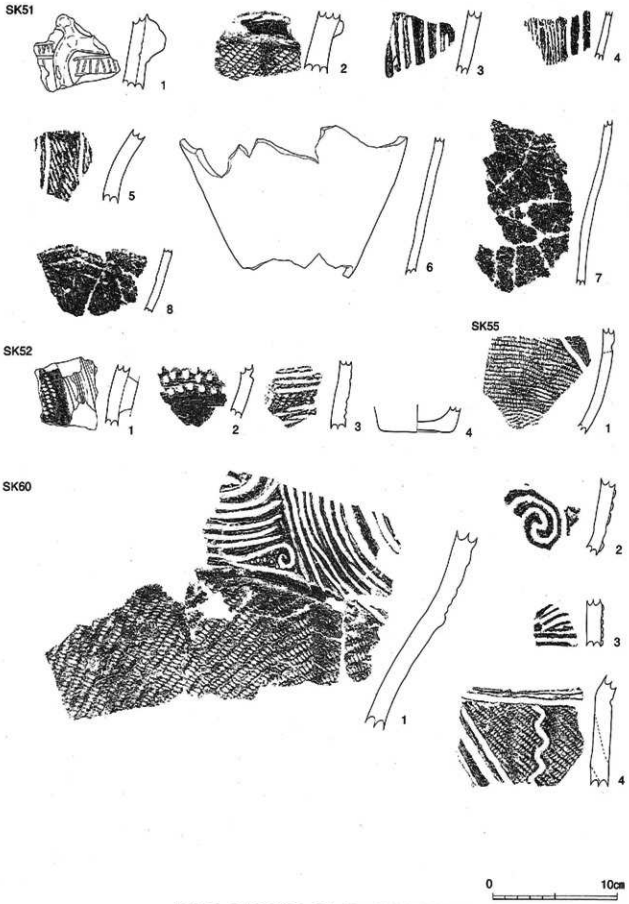


第39図　B地区SK50出土遺物実測図（2）

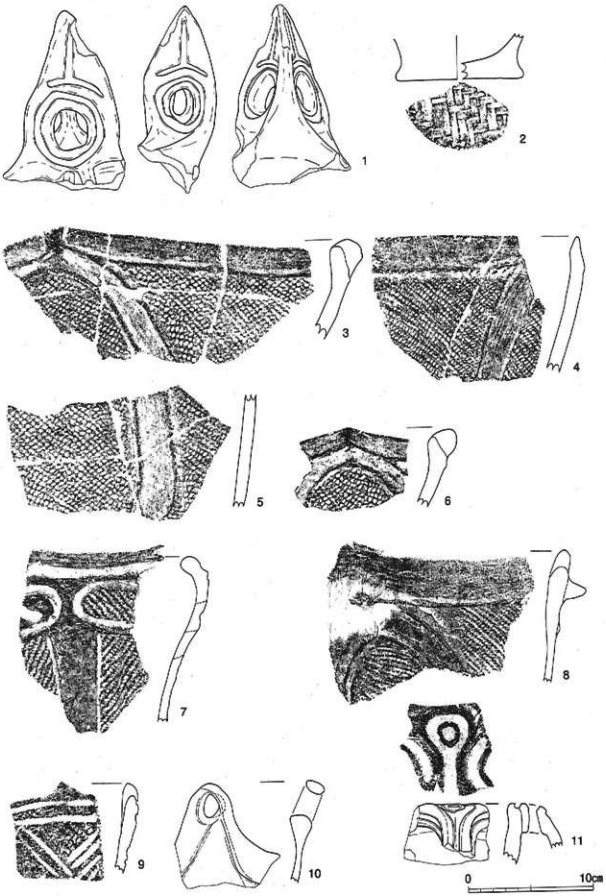




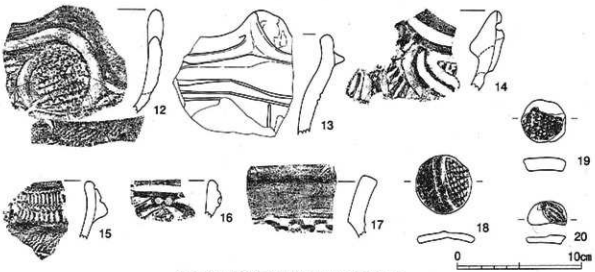
第40図　B地区SK50出土遺物実測図（3）



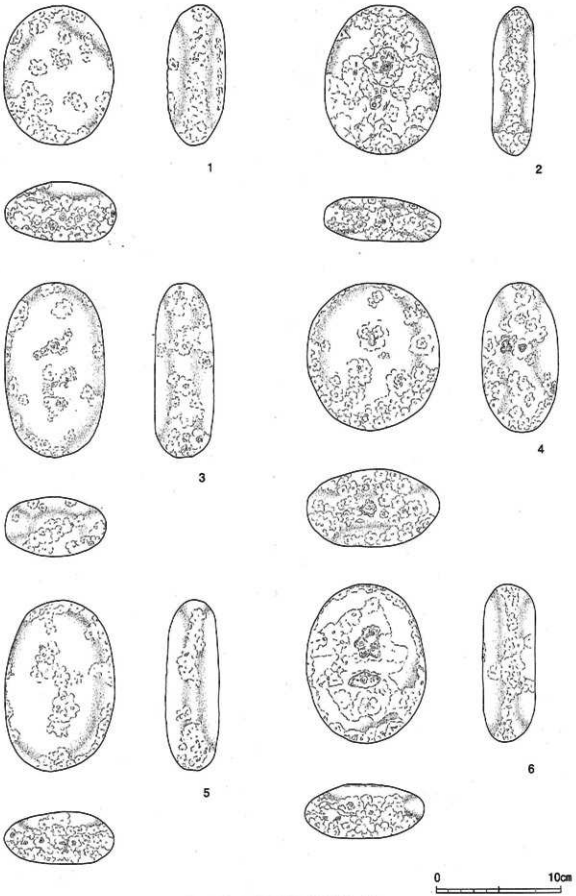
第41図　B地区SK51・52・55・60出土遺物実測図



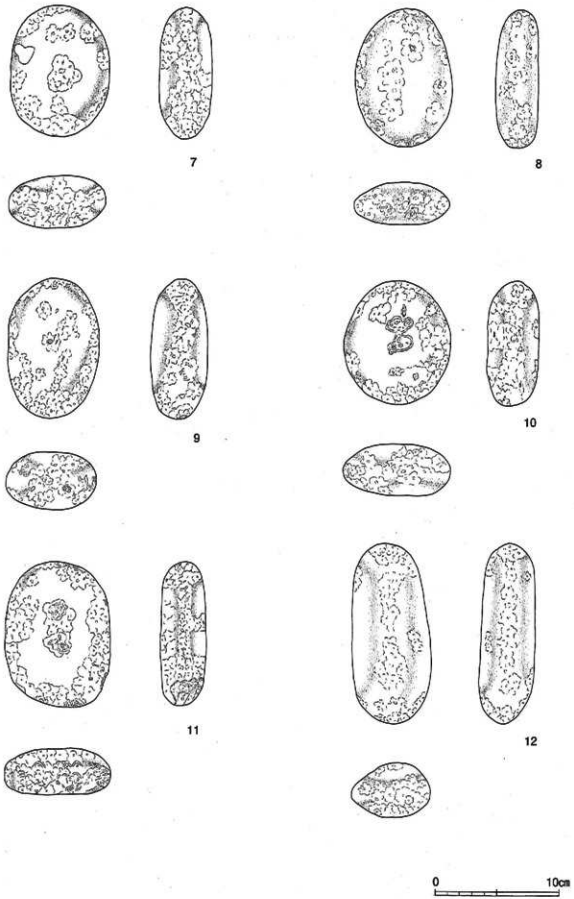
第42図　B地区遺構外出土遺物実測図（1）



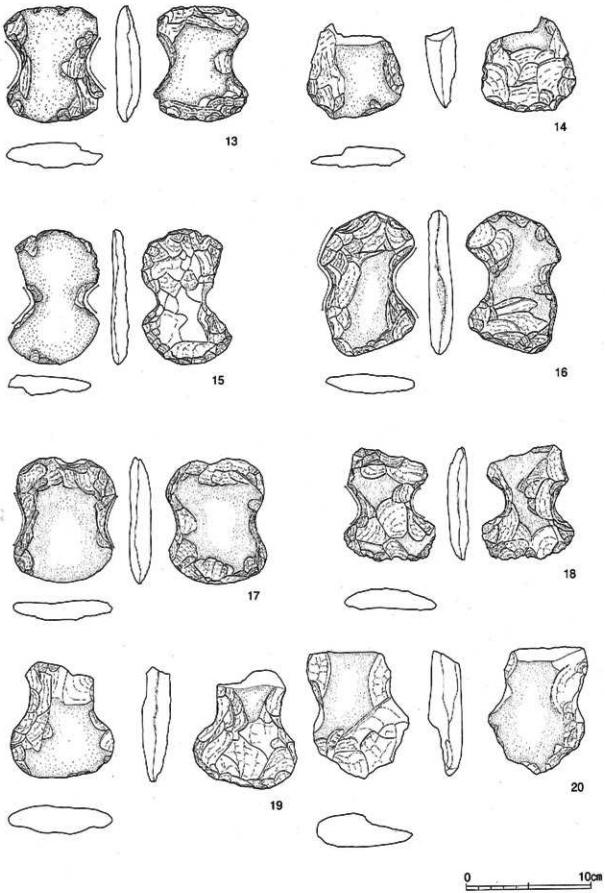
第43図　B地区遺構外出土遺物実測図（2）



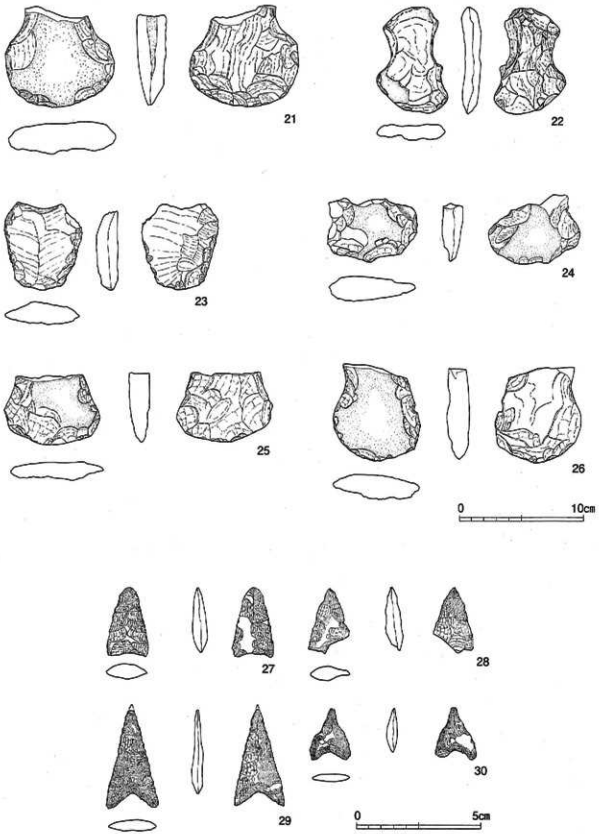
第44図　B地区出土石器実測図（1）



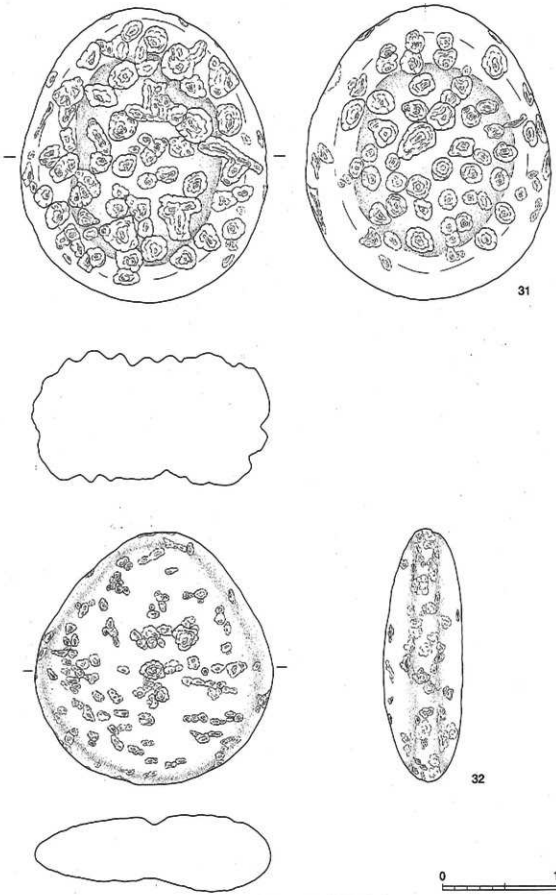
第45図　B地区出土石器実測図（2）



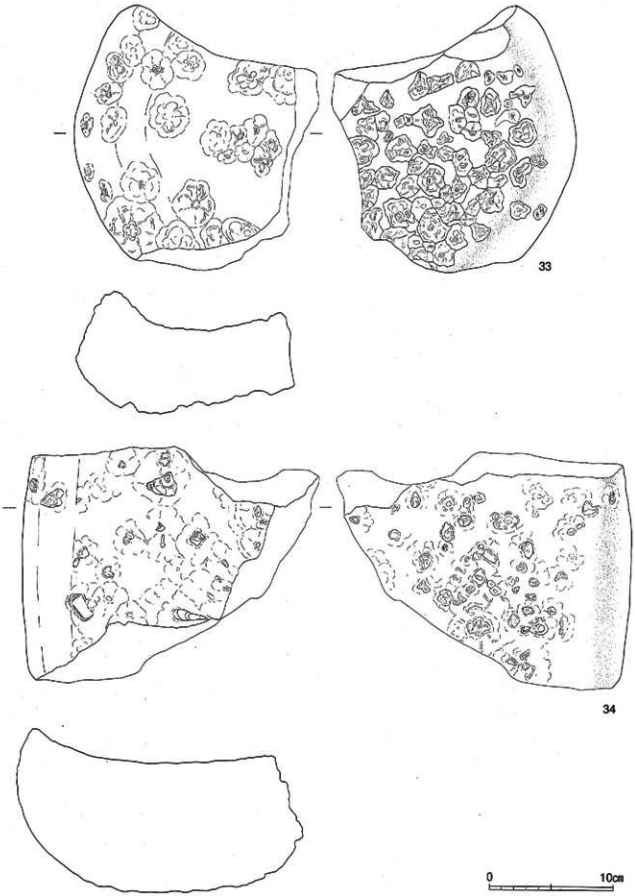
第46図　B地区出土石器実測図（3）



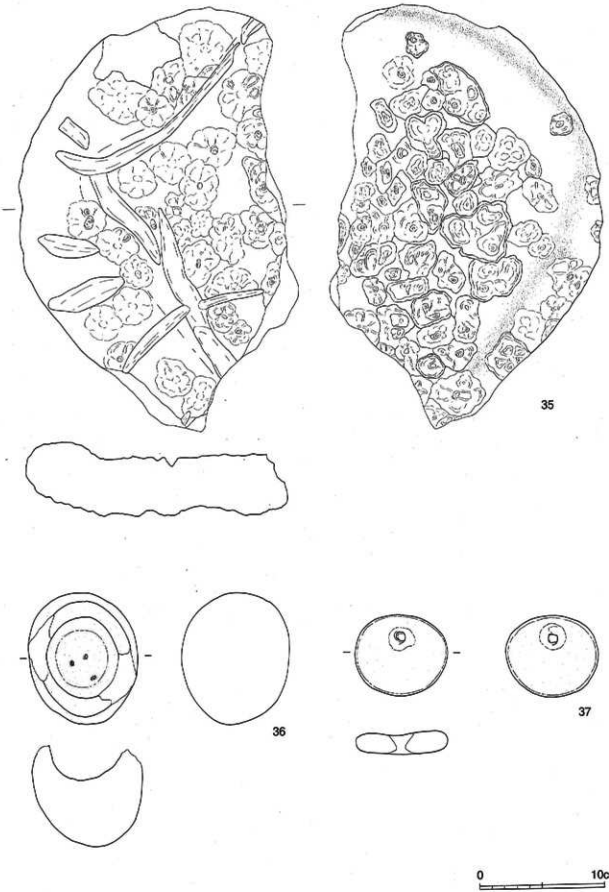
第47図　B地区出土石器実測図（4）



第48図　B地区出土石器実測図（5）



第49図　B地区出土石器実測図（6）



第50図　B地区出土石器実測図（7）

(3) 遺構外出土土器（第42・43図）

1は外面2孔、内面1孔の貫通孔を有する立体的な把手である。内外面とも孔に沿って沈線が施される。2は底部片で、底径10.2cm、底面に網代痕が残る。3～6は確認調査時点で土器が集中して出土した地点の遺物で、同一個体と考えられる。口縁部に突起をもち、口縁部無文帯と胴部縄文帯を微隆起線により区分する。胴部も無文帯と縄文帯を微隆起線により区分する。7は口縁部に楕円区画文を配し、胴部は沈線により縄文帯と無文帯を区分する。8は口縁部と胴部を微隆帯をめぐらせて区分する。9は直線的に開く鉢形土器で、口縁部に横位の2本の沈線、胴部に斜位の集合沈線を施す。10は波状口縁で、波頂部に円孔を有する小突起が付く。11は大形の把手。12は波状口縁で沈線による渦巻文が描き出される。13は波状口縁で隆帯が貼付され、胴部には2～3条の沈線が描き出される。14は口縁部で、隆帯を貼付、沈線による区画内を斜位の短沈線で充填する。15は口縁部で隆帯を貼付け、その上にキザミを入れる。胴部は撚糸文。16は口縁部で沈線と円形刺突文が施される。17は口縁部で、頸部に交互刺突文が施される。18～20は土製円盤である。

(4) 石器（第44～50図）

①磨石

磨石は完形・破損品を併せて12点が出土した。形状はほとんどが楕円形で、1点が棒状のものである。石質は安山岩のものが多い。その大きさ等は第4表のとおりである。

②打製石斧

打製石斧は、完成品・破損品を併せて14点が出土した。形状はいわゆる分銅形のものと撥形のものがある。その大きさ等は第4表のとおりである。

③多孔石

SI13、SK02より多孔石が2点出土した。その大きさ等は第4表のとおりである。

④石鏃

石鏃は4点出土した。27はSI01から、28はSK23から出土し、その他は表土中からの出土である。その大きさ等は第4表のとおりである。

⑤石皿

SK14、SK51の土坑内より2点と表採で1点の石皿が出土した。3点とも裏面が多孔石となっている。

⑥小型石皿

楕円形の自然石を窪ませた鉢形の石製品である。口径は7.2cm、器高8.6cmの丸底。凹の深さは3cm。

⑦垂飾り

長軸7.4cm、短軸6.4cm、厚さ1.6cmの扁平な楕円形の自然石に円形の孔を1孔穿つ。石質は玄武岩である。

No.	種別	形状	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土位置	備考
1	磨石	楕円形	11.1	8.8	4.7	650	流紋岩	SI13	
2	磨石	楕円形	11.7	9.2	3.5	560	安山岩	SK41	
3	磨石	楕円形	13.9	8.0	4.8	853	安山岩	SK49	
4	磨石	楕円形	11.8	10.7	6.3	1,017	安山岩	SK49	
5	磨石	楕円形	13.4	8.8	4.3	722	安山岩	SK49	
6	磨石	楕円形	12.6	9.5	4.3	709	安山岩	SK51	
7	磨石	楕円形	10.4	7.9	4.3	559	安山岩	SK51	
8	磨石	楕円形	11.1	7.8	3.4	437	安山岩	SK60	
9	磨石	楕円形	11.2	7.3	4.6	537	安山岩		
10	磨石	楕円形	9.9	8.6	4.1	440	玄武岩		
11	磨石	楕円形	11.5	8.4	3.6	585	安山岩		
12	磨石	楕円形	14.3	6.2	4.4	648	流紋岩		
13	打製石斧	分銅形	9.3	5.1	2.0	175	玄武岩	SI13	
14	打製石斧	分銅形	(7.6)	7.2	1.5	130	安山岩	SI13	一部欠損
15	打製石斧	分銅形	10.6	3.9	1.5	115	安山岩	SK51	
16	打製石斧	分銅形	11.1	5.3	1.6	199	安山岩		
17	打製石斧	分銅形	9.9	6.3	1.4	185	安山岩		
18	打製石斧	分銅形	8.6	4.0	1.6	124	ホルンフェルス		
19	打製石斧	分銅形	(8.8)	5.3	2.1	173	安山岩		一部欠損
20	打製石斧	分銅形	(10.0)	6.1	2.7	233	安山岩		一部欠損
21	打製石斧	分銅形	(7.4)	6.2	2.4	208	ホルンフェルス		一部欠損
22	打製石斧	分銅形	8.3	3.3	1.2	68	凝灰岩		
23	打製石斧	撥形	(6.5)	6.1	1.7	72	砂岩		一部欠損
24	打製石斧	撥形	(7.1)	5.0	1.7	80	安山岩		一部欠損
25	打製石斧	分銅形	(5.5)	6.2	1.4	87	砂岩		一部欠損
26	打製石斧	分銅形	(7.5)	5.2	1.9	122	砂岩		一部欠損
27	石鏃	凹基	2.8	1.7	0.6	1.8	流紋岩	SI01	
28	石鏃	凸基	2.6	1.6	0.7	1.3	石英	SK23	
29	石鏃	凹基	3.8	2.1	0.4	1.9	ホルンフェルス		
30	石鏃	凹基	2.0	1.6	0.4	0.6	チャート		
31	多孔石	楕円形	23.4	19.6	9.7	5,000	安山岩	SI13	
32	多孔石	楕円形	20.0	19.0	5.2	2,600	安山岩	SK02	
33	石皿		(20.1)	(17.7)	9.2	3,600	凝灰岩	SK14	一部欠損、裏面に多数の凹部あり
34	石皿		(18.2)	(17.8)	10.3	4,600	凝灰岩	SK51	一部欠損、裏面に多数の凹部あり
35	石皿		(33.1)	(22.7)	4.7	3,600	安山岩		一部欠損、裏面に多数の凹部あり
36	小型石皿		10.5	8.6	8.1		安山岩		
37	垂飾	円形	7.4	6.5	1.5		玄武岩		両面穿孔

第４表　Ｂ地区石器一覧表

Ⅲ. お わ り に

今回の調査では、A地区では、竪穴住居跡2軒、土坑6基、B地区では竪穴住居跡11軒、土坑62基が確認された。

A地区は遺跡の西端に位置し、遺跡の中心域に比べ遺構が散在化するようである。遺構に伴う遺物が少ないため、時期の特定は難しいが、SI01出土土器の中に胴部懸垂文に幅の狭い磨消帯のあるものが見られることから、加曽利EⅢ式段階と考えられる。また、石囲炉を持つSI02は、伴出遺物がないため時期が特定できないが、掘り方が表土下20cmと非常に浅いことから、SI01よりは新しい時期の遺構と考えられる。

B地区は遺跡の中心部から北に約50mのところに位置し、遺構の密度は濃く、竪穴住居跡や土坑の切り合いが多くみられる。主な遺構の切り合い関係や出土遺物から遺構の関係を示すと次のとおりとなる。

Ⅰ		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
中	新				古	新
					SI01	SK06
	SK05					
SK11						
				SI02	SK10	
		SI04				SK14
	SK46		SI12			
			SK51	SK50		
SK60				SI08	SI13	
				SI06		

第5表　時期別遺構変遷（案）

Ⅰ期の段階はSK05、SK11、SK46、SK60等の袋状土坑が造られる。SK11の1やSK60の1のような複弧文系土器群や口縁部渦巻文がみられる中段階のものと、SK05の15のような頸部に無文帯と3条の沈線をもつ新段階のものがある。また、SK05の1～3や7、SK46の8や10のような阿玉台式やSK46の9のような大木8a式の土器片が混入することから、周辺の遺構の中にはその時期に相当するものもあると考えられる。

Ⅱ期以降は、住居跡と浅い土坑により構成される。SI02とSI04は切り合い関係と考えられるが、SK10により切られており前後関係は不確定であるが、少ない出土遺物から類推すると、SI02の2が微隆起線により磨消帯と縄文帯を区分する土器であることから、加曽利Ⅳ式期と考えられ、SI04の1は隆沈線による渦巻文、2は直線的に開く浅鉢形土器であることから加曽利Ⅱ式と考えられ、SI04→SI02→SK10の順が想定される。また、SI04とSK14も切り合い関係にありSI04→SK14の順となる。SK14の1は注口土器で円形刺突を多用していることから称名寺Ⅱ式と考えられる。

SI01とSK06は切り合い関係上ではSI01→SK06となるが、SK06の1、SI01の1とも双頭突起状の波状口縁をもつ土器である。両者とも覆土中の土器で、特にSI01の1は住居がある程度埋まった段階に一括投棄された状況で出土している。尚、SI01の2～4も同一地点からの出土である。3は称名寺式段階のものであるが、2と4はその形態から加曽利EⅣ式と考えられる。SI01の時期については、このような土器の出土状況から加曽利EⅣ式と称名寺式が共存する時期と考えられる。

SI05・SI06・SI08・SI10・SI13は重複関係にあり、その切り合い関係からSI10→SI05→SI06・SI08→SI13の順が考えられる。SI05とSI10はほとんど遺物が無いことから時期の特定はできないが、SI06の5とSI08の2のような微隆起線をもつ遺物が見られることから、両遺構は加曽利EⅣ式期と考えられる。尚、

SI08の1は取り上げ時にSI08としたが、SI13の遺物と考えられる。SI13は1の「8」字状の把手と撒隆起線で縁取られた「J」字状の無文帯が展開する土器や9のように沈線により無文帯の文様が2段に展開する土器などから称名寺式期の遺構と考えられる。

SK46の後に造られたのがSI12である。SK46の1～4は同一個体と考えられ、蛇行沈線と渦巻と左右対称の刺状モチーフによる施文は大木8b的モチーフと思われる。また、9の口縁形態は大木7～8式系のものである。一方、SI12の1は、口縁部に楕円区画文、胴部に幅広の磨消縄文をもつことから加曽利EⅢ式と考えられる。

各時期の併行関係は概ね次のとおりである。Ⅰ期は加曽利EⅠ式段階、Ⅱ期は加曽利EⅡ式段階、Ⅲ期は加曽利EⅢ式段階、Ⅳ期は加曽利EⅣ式段階、Ⅴ期は称名寺式段階と考えられる。

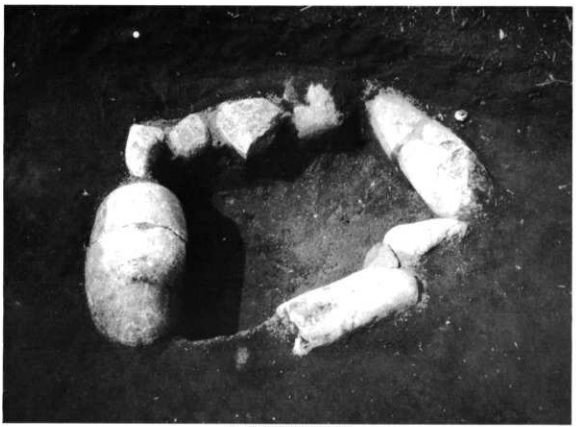
よって、この区域は当初袋状土坑を中心とする貯蔵域であったが、加曽利EⅡ式期～後期初頭までは竪穴住居が造られ居住域となる。それ以降の遺構・遺物は確認されないことから、居住域は堀之内式の住居跡が確認された第Ⅰ次調査区や加曽利B式が確認された第Ⅲ次調査区付近に移ったと考えられる。

（参考文献）

赤石澤亮・神野安伸　1989『竹下遺跡Ⅱ』宇都宮市教育委員会
大川　清・鈴木公雄・工藤善通　編　1996『日本土器事典』雄山閣
戸沢充則　編　1994『縄文時代研究事典』東京堂出版
今村啓爾　1977「称名寺式土器の研究（上）」『考古学雑誌』第63巻第1号　日本考古学会
今村啓爾　1977「称名寺式土器の研究（下）」『考古学雑誌』第63巻第2号　日本考古学会
横浜市埋蔵文化財センター　1990『調査研究集録』第7冊
柿沼修平　1994「称名寺式土器」『縄文文化の研究』4　雄山閣
後藤信祐　1996『槻沢遺跡Ⅲ』栃木県教育委員会・㈶栃木県文化振興事業団
塚原孝一　1994『三輪仲町遺跡』栃木県教育委員会・㈶栃木県文化振興事業団

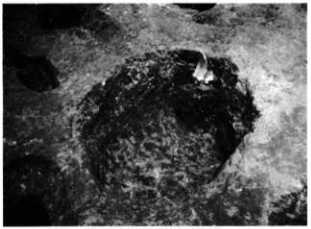
写真図版

①A地区 SI01 完掘状況

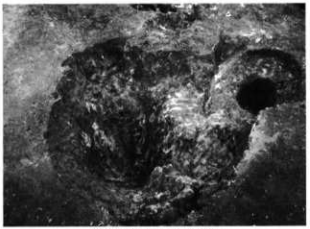


②A地区石囲炉確認状況

①A地区 SK01 確認状況



②A地区 SK02 完掘状況



③A地区 SK03 完掘状況

④A地区 SK04・05 完掘状況

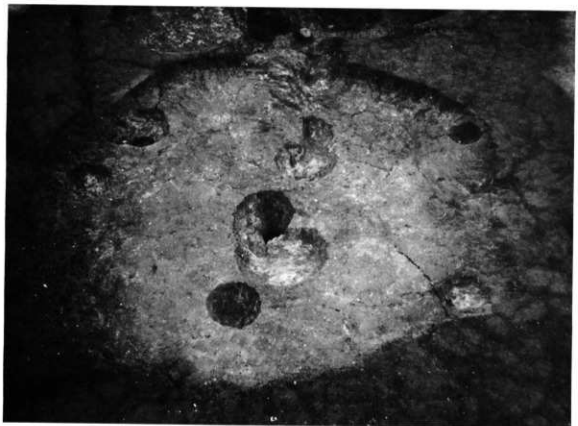
⑤A地区 SK06 確認状況

①A地区全景（北から）

②B地区 SI01 完掘状況

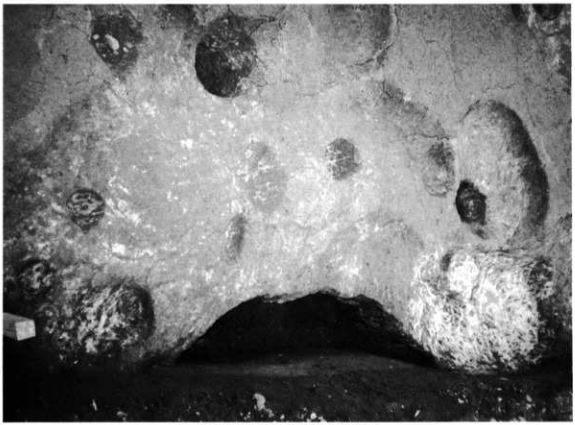
①B 地区 SI01 遺物出土状況

②B 地区 SI02 完掘状況

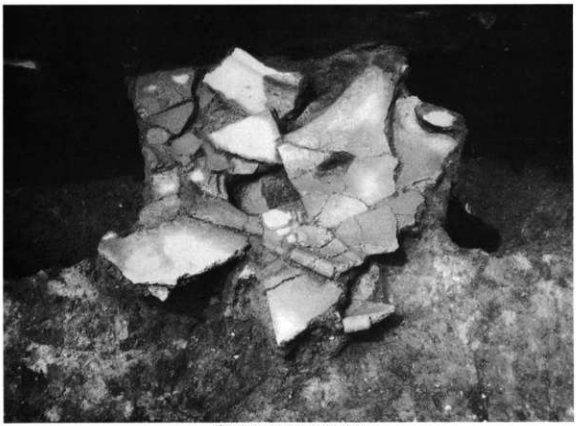


①B地区 SI03 遺物出土状況

②B地区 SI04 完掘状況



①B地区SI12・SK46完掘状況



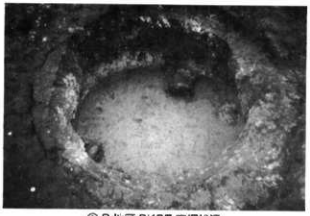
②B地区SI12遺物出土状況

①B地区 SI13 周辺発掘状況

②B地区 SI08 遺物出土状況

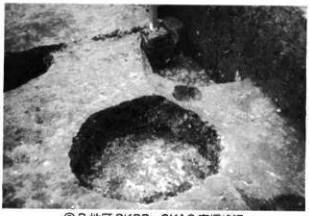
①B地区 SI13 遺物出土状況

②B地区 SI13 炉確認状況

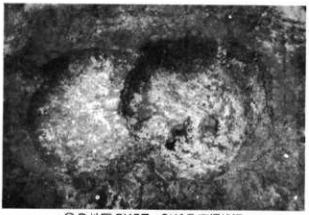


①B 地区 SK05 完掘状況

②B 地区 SK06 遺物出土状況



③B 地区 SK08・SK10 完掘状況



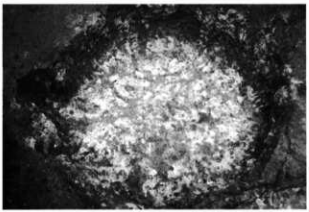
④B 地区 SK07・SK15 完掘状況

⑤B 地区 SK11 遺物出土状況

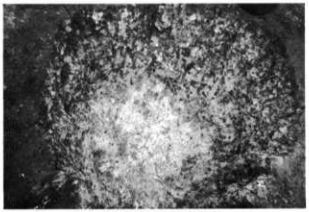
⑥B 地区 SI11 完掘状況

⑦B 地区 SK14 遺物出土状況

⑧B 地区 SK24～31 完掘状況

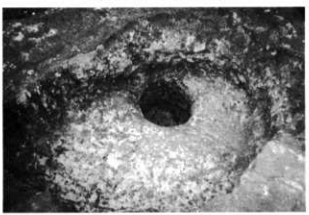


①B 地区 SK49 完掘状況



②B 地区 SK50 完掘状況

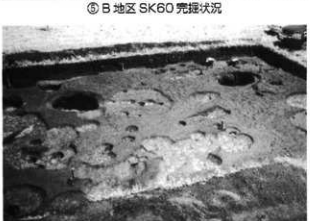
③B 地区 SK50 遺物出土状況



④B 地区 SK51 完掘状況

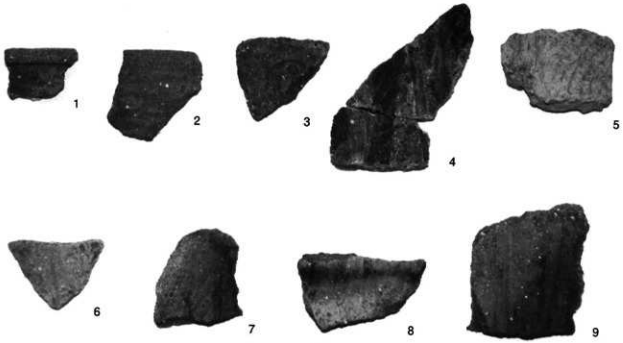
⑤B 地区 SK60 完掘状況

⑥B 地区完掘状況（南西から）

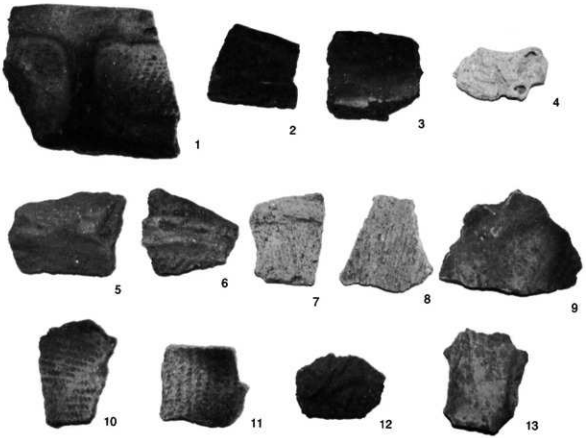


⑦B 地区東側完掘状況（南から）

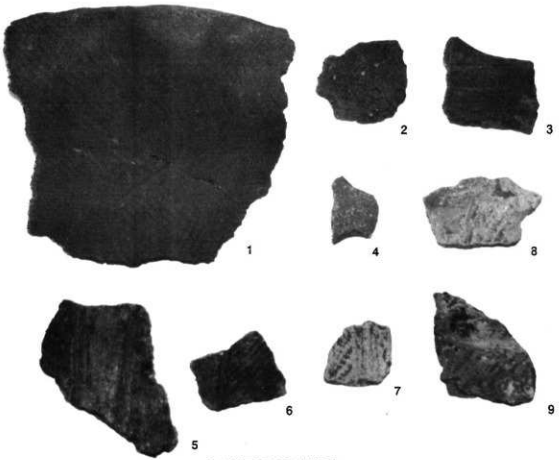
⑧B 地区西側完掘状況（南から）



①A 地区 SI01 出土遺物



②A 地区 SK01 出土遺物



① A 地区 SK02 出土遺物

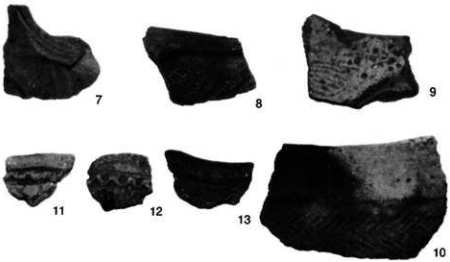
SK03

SK04

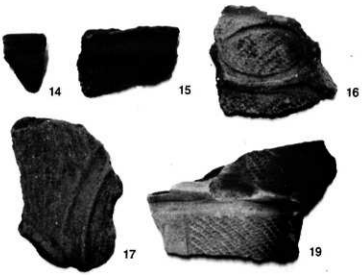
SK06

② A 地区 SK03・SK04・SK06 出土遺物

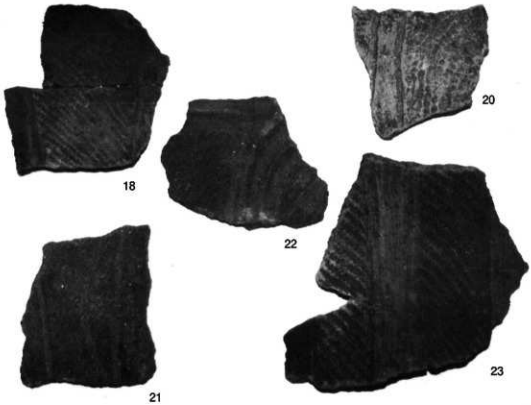
① A 地区遺構外出土遺物－1



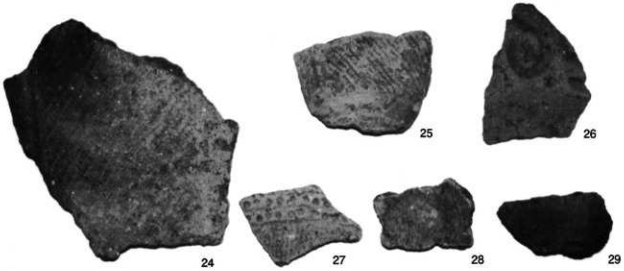
② A 地区遺構外出土遺物－2



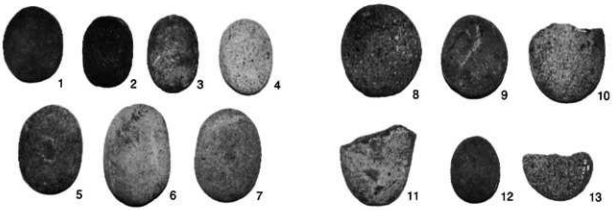
③ A 地区遺構外出土遺物－3

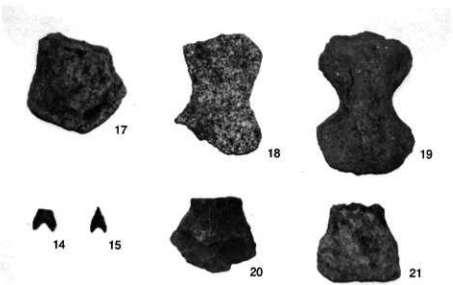


①A 地区遺構外出土遺物－4



②A 地区遺構外出土遺物－5

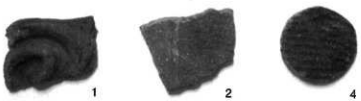




①A地区出土石器

①B区 SI01 出土遺物

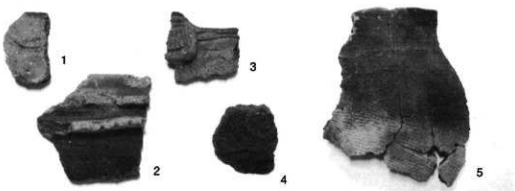
①B 地区 SI01 出土遺物



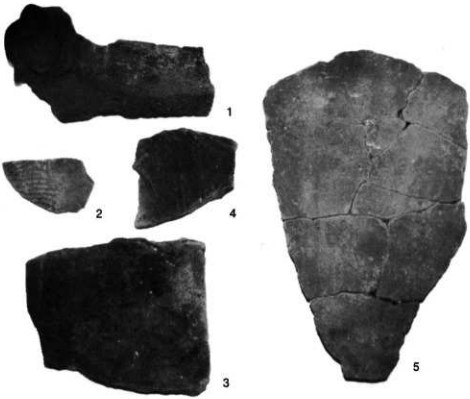
②B 地区 SI02 出土遺物

③B 地区 SI04 出土遺物

④B 地区 SI05 出土遺物



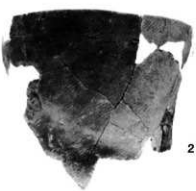
⑤B 地区 SI06 出土遺物



①B地区 SI08 出土遺物

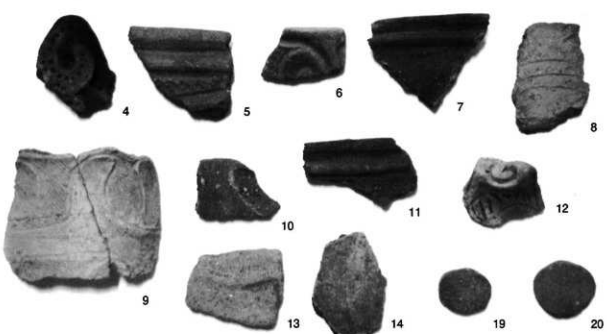
②B地区 SI12 出土遺物

①B地区SI13出土遺物－1



②B地区SI13出土遺物－2

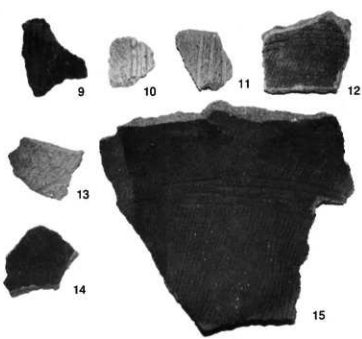
③B地区SI13出土遺物－3



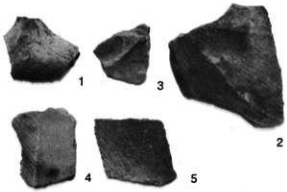
④B地区SI13出土遺物－4

①B 地区 SK02 出土遺物

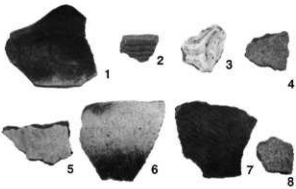
②B 地区 SK05 出土遺物－1



③B 地区 SK05 出土遺物－2

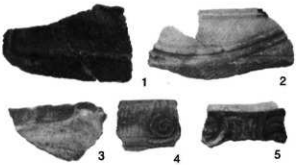


①B 地区 SK06 出土遺物



②B 地区 SK07 出土遺物

③B 地区 SK10 出土遺物

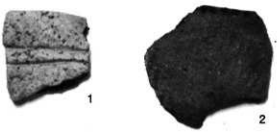


④B 地区 SK11 出土遺物－1

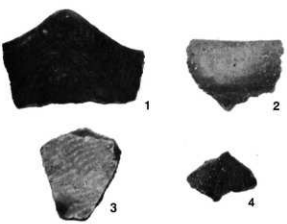
⑤B 地区 SK11 出土遺物－2

⑥B 地区 SK11 出土遺物－3

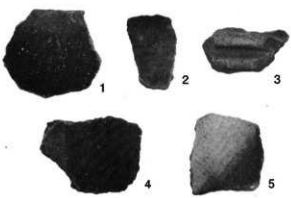
①B 地区 SK14 出土遺物



②B 地区 SK21 出土遺物

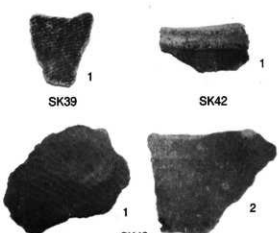


③B 地区 SK23 出土遺物

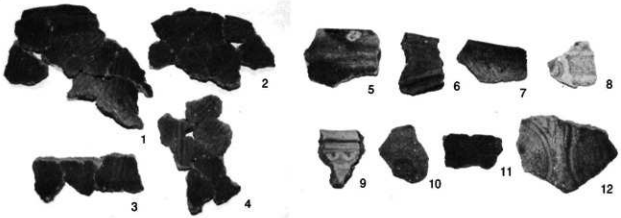


④B 地区 SK24 出土遺物

⑤B 地区 SK25 出土遺物



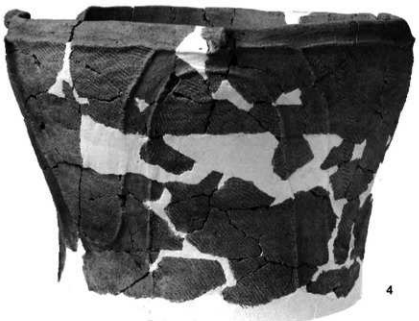
⑥B 地区 SK39・SK42・SK49 出土遺物



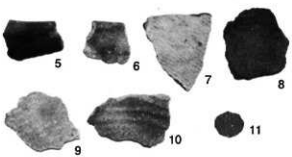
①B地区SK46出土遺物

②B地区SK50出土遺物

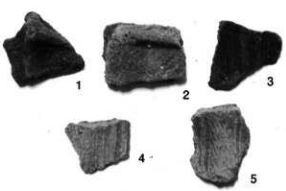
①B地区 SK50 出土遺物



① B 地区 SK50 出土遺物

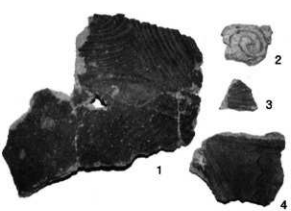


② B 地区 SK50 出土遺物

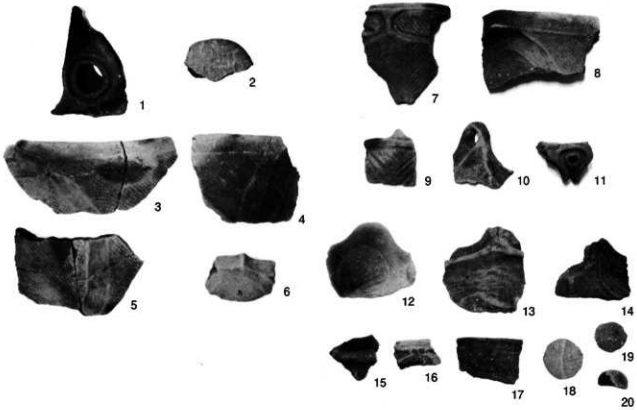


③ B 地区 SK51 出土遺物

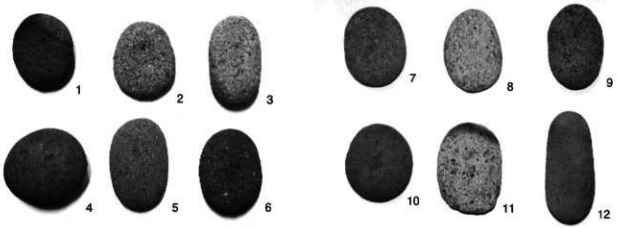
④ B 地区 SK52 出土遺物



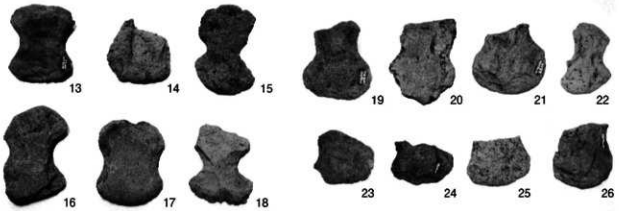
⑤ B 地区 SK60 出土遺物

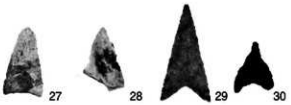


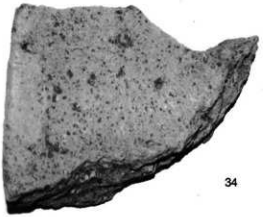
①B地区遺構外出土土器



②B地区出土石器







①B地区出土石器

35

36

37

①B地区出土石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	たけしたいせき　－だいはちじちょうさ－
書名	竹下遺跡　－第Ⅷ次調査－
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第74集
編著者名	今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号　TEL. 028-632-2764
発行年月日	西暦2010年（平成22年）3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たけしたいせき 竹下遺跡	うつのみやし 宇都宮市 たけしたまち 竹下町	09201		36度 33分 09秒	139度 58分 09秒	20050502 ～ 20050731	734	個人住宅建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹下遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　13軒 土坑　68基	縄文土器 石器	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第74集

竹　下　遺　跡

— 第Ⅶ次調査 —

平成22年3月発行

発　行　宇都宮市教育委員会文化課
（宇都宮市旭1－1－5）
TEL（028）632－2764

印　刷　㈱アートプレス
（宇都宮市平出町3600）
TEL（028）663－5085